

平成29年度文部科学省委託 幼児期の教育内容等深化・充実調査研究事業

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導や評価の在り方に関する調査研究

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた 教育課程の編成や指導計画の在り方



平成30年3月

大分県教育委員会

はじめに

大分県では、平成28年3月に「生涯にわたる力と意欲を高める『教育県大分』の創造」という基本理念のもと長期教育計画である『教育県大分』創造プラン2016」を策定しました。併せて、幼児教育振興プログラムを策定し、県内のどこに住んでいても就学前の子供に対する豊かな教育の機会が保障されるように、幼稚園、保育所、認定こども園、小学校及び家庭等が取り組む内容を具体的にお示ししました。本指針では、夢中になって遊ぶ中で自分で気付いたり、考えたりしていく「しんけん遊ぶ子」の育成を目指しています。

平成30年3月に小・中学校の学習指導要領とともに幼稚園教育要領及び幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び保育所保育指針が同日告示され、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を5領域のねらい及び内容に基づく活動全体によって育むこととともに、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」いわゆる「10の姿」が位置付けられました。これは、幼児期の終わりの育ちの姿をイメージしながら、それぞれの園のスタートから意識して取り組むための手立てであり、それに伴った育ちを捉える視点にもなります。

また、幼児教育において育みたい資質・能力の実現に向けては、子供の姿や地域の実情等を踏まえつつ、どのような教育課程を編成し、実施・評価し改善していくのかというカリキュラム・マネジメントを確立することが求められています。

これからの幼児教育は、幼稚園教育要領等の改訂の基本方針についての理解を深めながら、小学校教育との接続の一層の強化を図るなど重視すべきポイントを視野に入れた取組も進めていかなければなりません。

そこで、今年度、文部科学省の調査研究事業の採択を受け、『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿』と『幼小接続期の育ちと学び』を踏まえた教育課程の編成や指導計画の在り方を研究課題に設定し、日出町をモデル地区として教育課程編成の在り方について研究を行ってきました。また、モデル地区においては幼保小接続の研修を行い、幼稚園、認定こども園、保育所と小学校の教諭等が、子供の遊びを見ながら自立心、協同性、思考力の芽生え等の育ちを具体的に捉え、その課題の解決に繋げようとしています。

幼児期は生涯にわたる人格形成を培う重要な時期です。私たちは、未来から預かった子供たちがしっかりと生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児期の教育の充実を図っていかなければなりません。本研究で取り組んだことがそれぞれの幼稚園、認定こども園、保育所で生かされ、子供たちが心豊かにたくましく育っていくことを願っています。そして、この研究の成果が1年限りのもので終わることなく、今後さらに広がり、深まっていくように県教育委員会として支援していきたいと思えます。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたりご指導いただきました国立教育政策研究所幼児教育研究センター掘越紀香先生をはじめ、調査研究実行委員会、研究推進園の先生方、日出町教育委員会の皆様に心から感謝を申し上げます。

平成30年3月

大分県教育庁義務教育課
課長 米持 武彦

— 目 次 —

はじめに

I 本調査研究の目的と方法

1 研究の目的	1
2 研究の体制	1
3 研究方法	4

II 研究の内容

【研究推進園による調査研究】

1 教育課程編成の手順	9
2 教育課程の確認	10
3 指導計画の改善	17
4 週案の改善	19
5 指導計画の評価と改善	22
6 教育課程の改善	22

III 研究の成果と課題

1 子供理解と環境の構成、保育者の援助	24
2 社会に開かれた教育課程	25
3 まとめ（提言）と今後の課題	26

参考資料

教育課程、指導計画、指導案	29
実践記録	37
幼児の生活と遊びの姿から「10の姿」を捉える	42

I 本調査研究の目的と方法

- 1 研究の目的
- 2 研究の体制
- 3 研究方法

I 本調査研究の目的と方法

1 研究の目的

本研究の目的は平成28年に策定した「大分県幼児教育振興プログラム（改訂版）」に基づくとともに、新幼稚園教育要領の趣旨等を踏まえ、質の高い幼児教育を推進するため「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育課程モデル案の作成をすることである。

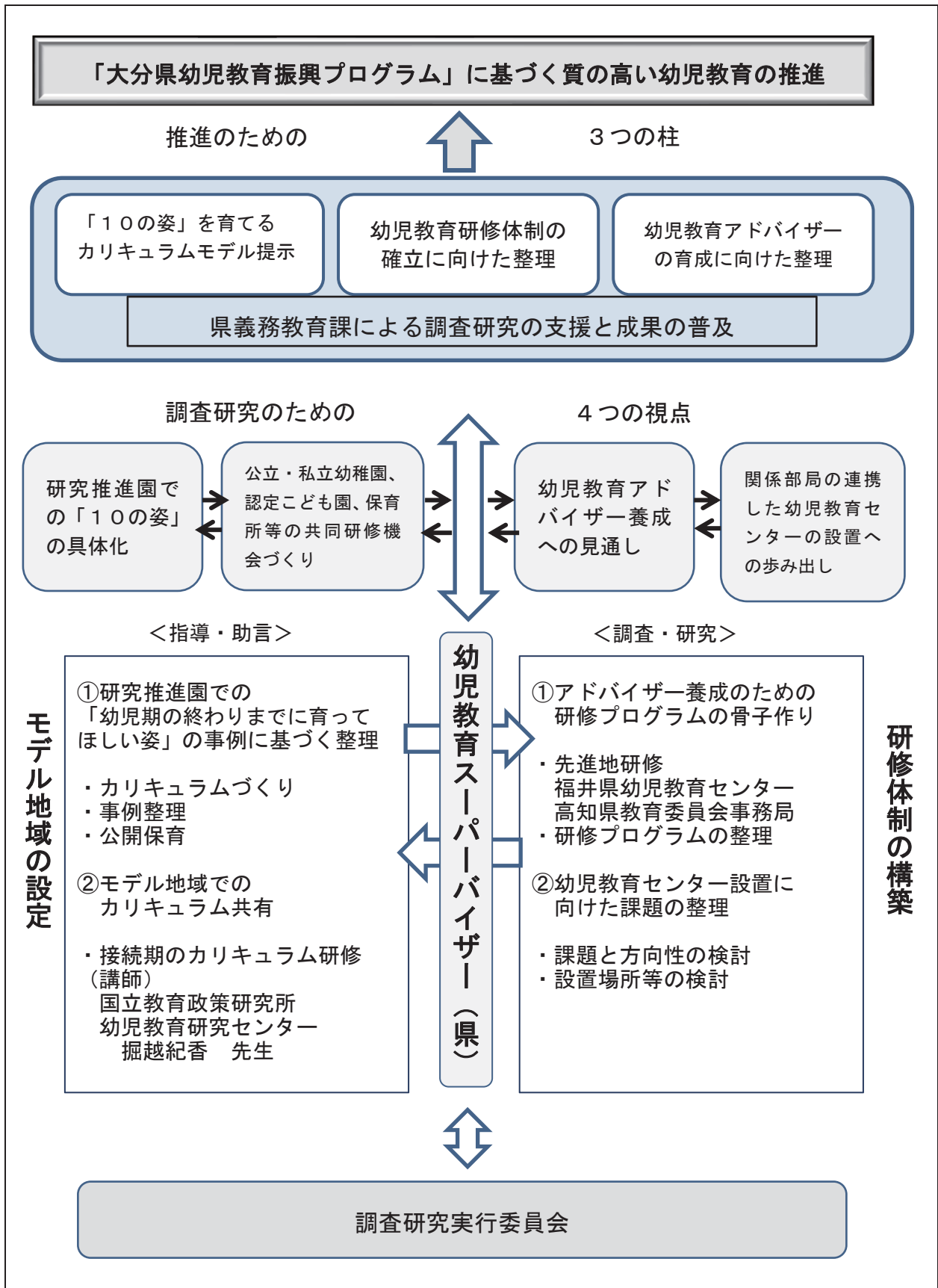
また、モデル地域において、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえたカリキュラム編成に向けて、新幼稚園教育要領等の研修を行うとともに、教育課程の編成や指導計画の実践的研究を行う。

2 研究の体制

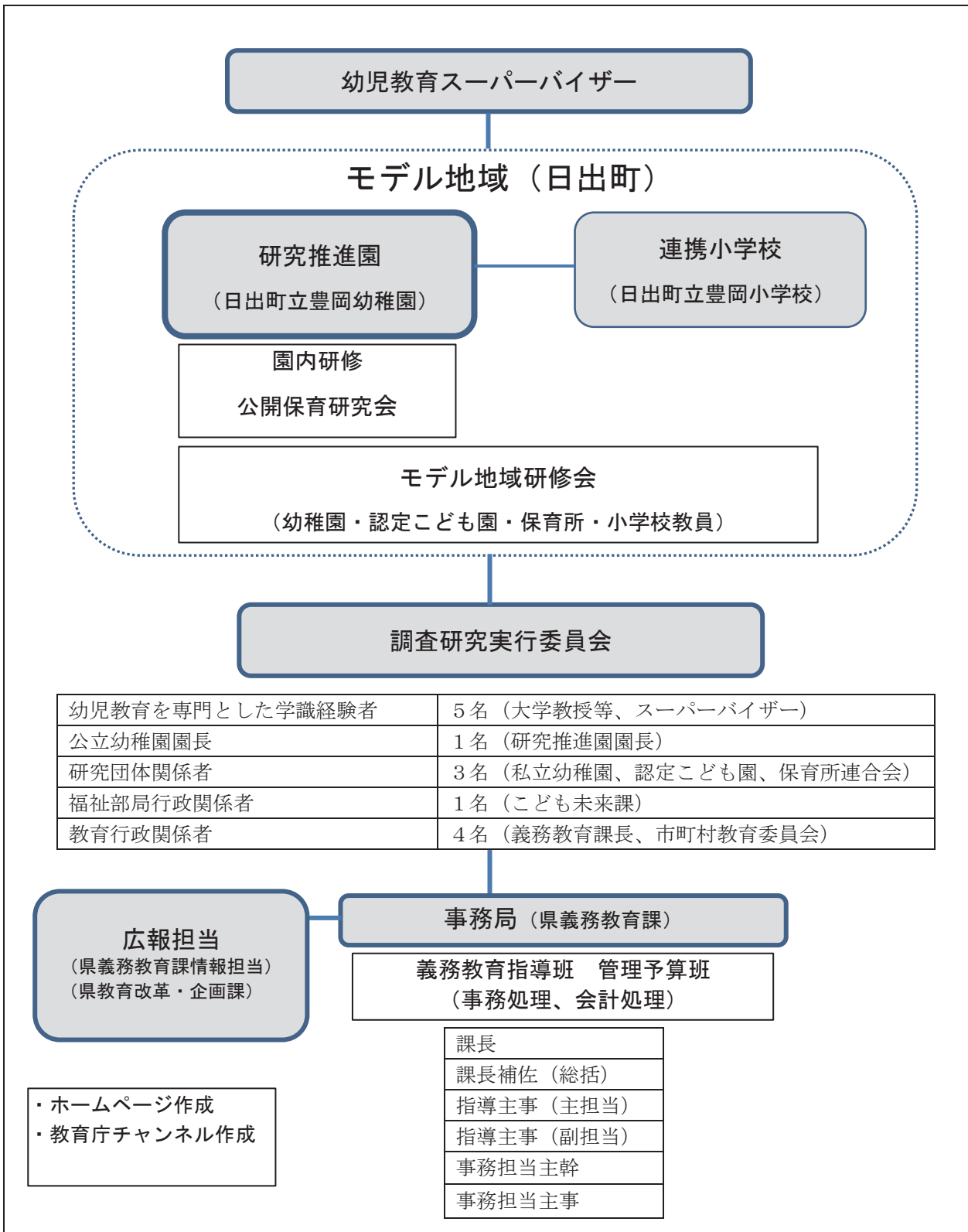
本研究を推進するに当たり、大分県幼児教育調査研究実行委員会を設置し、研究推進園及びモデル地域の研究推進体制、研究の実施状況の確認、研究内容への助言等を行うこととした。

また、日出町をモデル地域として指定し、日出町立豊岡幼稚園を研究推進園として、幼児教育スーパーバイザーを派遣し、調査研究の支援を行うこととした。

役 職	氏 名	所 属
顧問	松田 順子	東九州短期大学 特任教授
顧問	江良 愛子	大分保育専門学校 教務部長
実行委員	小池 一彦	大分県教育センター 所長
実行委員	麻生 良太	大分大学教育学部 准教授
実行委員	須股 仁美	日出町立豊岡幼稚園 園長
実行委員	西村 陽子	日出町教育委員会 指導主事
実行委員	山崎 しのぶ	新規採用教員園内研修指導員
実行委員	宮本 二日	幼児教育スーパーバイザー
実行委員	土居 孝信	私立幼稚園連合会 会長
実行委員	正本 秀崇	認定こども園連合会 会長
実行委員	首藤 尚紀	保育連合会 理事
実行委員	浅野 邦広	日出町教育委員会学校教育課 課長
実行委員	二日市 聖子	大分県福祉保健部こども未来課 課長
実行委員	米持 武彦	大分県教育庁義務教育課 課長



組織図



3 研究方法

研究は以下の方法で進めた。

(1) モデル地域及び研究推進園の指定

モデル地域として日出町を指定し、研究推進園を豊岡幼稚園とした。公立・私立の幼稚園、認定こども園等の幼児教育施設が存在しているため、異なる幼児教育施設を卒園した子供が同じ小学校に就学することになる。就学前の園種を問わず幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を共有化していくためにも、モデルとなるカリキュラムを作成することが有効であると考え、モデル地域として指定することにした。日出町内の公立幼稚園は研究協議会を開催し、共通の研究主題に基づいて研究を進めている。したがって、どの園も教育課程の編成等について共有しながら保育を行うことができている。そこで代表値となる園を指定し深く見ていくことで、対象園の取組をモデルとして広められるよう研究を進めていくこととした。豊岡幼稚園は日出町内で最も児童数が多い豊岡小学校に隣接する公立幼稚園である。小学校長が園長を兼任しているため、豊岡幼稚園の研究の取組を小学校と共有するのにも適していることから研究推進園に指定した。

(2) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育課程モデル案の作成

新幼稚園教育要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成に当たっては、幼児教育スーパーバイザーを研究推進園に派遣し、教育課程モデル案の編成に対する指導助言を行うこととした。

まず、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を園での具体的な場面の幼児の姿で捉えることから始め、10項目の視点から保育を評価し改善しながら、教育課程の編成に取り組むことにした。

(3) モデル案作成のためのカリキュラム作成研修会

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえたカリキュラム作成研修会（9月）
・国立教育政策研究所幼児教育研究センターより講師を招聘し、モデル地域にて接続期のカリキュラム等についての研修会を実施する。（11月）
・モデル地域の公・私立幼稚園、認定こども園、保育所の教諭及び保育士等が各園で作成したカリキュラムを持ち寄り改善の視点を協議する。

<カリキュラム研修会>

モデル地域の日出町において、幼稚園、認定こども園、保育所、小学校の管理職、教諭等を対象にカリキュラム研修会を行った。幼児期の教育と小学校教育の接続のカリキュラムの編成について、幼小が理解を図るためのものである。国立教育政策研究所幼児教育研究センターの掘越紀香先生による講義・演習を通して、接続期のカリキュラムの改善に生かすための研修を行った。

研修では、新幼稚園教育要領に示された三つの資質・能力、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について講義を受け、グループ協議を通して事例を基に育ちの姿を捉える演習を行った。

今回、ドキュメンテーションの手法で、「幼児期に終わりに育ってほしい姿」の視点から、幼小が互いに幼児の姿について共有化していくことの大切さに気付く契機になった。

事例発表（大神幼稚園、豊岡幼稚園）

*写真（1，2枚）を通して、「10の姿」につながる印象的な場面（活動・遊び）を紹介する。その間、3色付箋にメモする。

グループ討議 & ドキュメンテーション

6人程度で1グループになり、1事例と写真について議論する。

*事例提供の先生は、必要に応じてグループをまわって説明する。

<討議の視点> 付箋利用

◎子供が自ら進んで意欲的に遊んでいる姿・学び：付箋+マジック ブルー
（子供の学びは？ 何が面白くて主体的に取り組んでいるか？）

◎環境構成の工夫：付箋+マジック グリーン

◎保育者・教師の援助：付箋+マジック ピンク

◎「10の姿」（幼児期の終わりまでに育ってほしい姿）：マジック 赤

◎カリキュラムとのつながり・生かせる視点：マジック 赤

グループ発表（1グループ2分程度）

掘越先生による助言



(4) 公開保育研究会の実施

研究推進園において、モデル地域内の幼児教育施設、小学校の教諭等に対し、公開保育研究会を行った。内容は、教育課程、指導計画の見直しに当たっての手順、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体化についての取組の共有を図り、その後、参加者それぞれが持ち寄った教育課程の見直しや改善の視点を探る演習を行った。その後、大分大学の麻生良太先生に推進園の公開保育とこれまでの取組について講評をいただいた。

参加者のアンケートには

- ・保育を参観して幼稚園と小学校の教育がつながっていることを実感した。「10の姿」については小学校でも大切にしていける姿であると感じた。
- ・「10の姿」を視点にして観察すると、保育のねらいがわかりやすく子供の行動や姿が捉えやすいと感じた。
- ・「10の姿」を踏まえたカリキュラムを編成していかなければならないことを再認識した。

今回の研修では事前に参加者に対し、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10項目について、自園での子供の姿で捉え、研究会に参加してもらった。これまでも、幼小が互いに参観を行ってきたが、これまで遊びをどのように見ればよいか戸惑っていた小学校にとっても、今回、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を知ることで、幼児の姿を捉える視点をもつことができたと思われる。

本研修で参加者が学んだことを生かし、幼小が互いに研修を継続していくことでより子供を見取る力を付けていくことが期待できる。

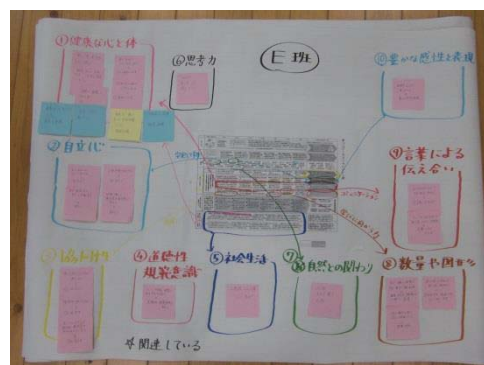
*個人作業（10分）→グループ協議（20分）→発表（20分）

- ①アプローチカリキュラム（モデル）から「10の姿」につながる内容をさがす（ピンク）
- ②「10の姿」につながる「環境の構成」「教師の援助」をさがす（黄色）
- ③自分の記入した付箋を模造紙に貼りながら発表し、この時期に育ってほしい「10の姿」について意見を出し合う。（発達や生活を見通しながら）
- ④グループの考えをまとめて、模造紙に書く。
- ⑤グループの考えを発表する。

*自園の教育課程、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラム（30分）

個人作業（15分）→交流（10分）→振り返り（5分）

- ①自園（自校）の教育課程に加えたい、この時期に育ってほしい「10の姿」を付箋に記入する。（ピンク）
- ②そのために必要な「環境の構成」「教師の援助」を付箋に記入する。（黄色）
- ③自園の見直しの視点をグループで交流する。
- ④研修を振り返り、まとめを書く。



(5) 先進地視察による研修（9月 高知県、福井県）

既に幼児教育センターが設置されている自治体にて、幼小接続の在り方、カリキュラム作成の研修の在り方等について調査研究を行った。

① 高知県教育委員会事務局幼保支援課

高知県は平成15年4月に幼保支援課が設置され、それまで別々であった保育所・幼稚園の行政窓口が一本化された。保育士登録や幼保連携、研修支援や施設整備までカバーしており、幼児教育に係る業務を一手に担っている。

今回、大分県として幼児教育センターに必要な機能や幼児教育の研修及び指導に関することを中心に説明を受けた。高知県では、県教育センターが基本研修と専門研修を実施し、幼保支援課では施策や事業に関わる協議会及び研修が実施されており、研修体系も整備されている。教育センターの研修担当が4名、幼保支援課の幼児教育担当が4名と、人員が配置され、幼児教育に対する自治体の施策が進んでいる。

また、公立幼稚園の数は少ないが、市町村教育委員会が窓口となり、研修等の案内は一元化していることや、市町村ごとに園長会が組織されていることなど、市町村の教育委員会が幼児教育に対して関与していることがわかった。

同じ幼児の保育・教育に携わる者同士が公・私立、園種の垣根を越えて、幼児の発達に関わることは大分県においても同様であるが、公・私立を問わず研修が体制化されてきていることが特にすばらしいと思った。

高知県では子供の遊びの姿等の記録をDVDにしていた。「子どもの考える力を育む保育の在り方」には、4歳児「キュウリの収穫と大きさ比べ」や5歳児「色水を氷で固める」等、子供の自発的な遊びの中で、考えたり、試したりする子供の姿があった。このような事例をもとに教師同士が意見を交流する中で、育みたい資質・能力等を具体的な子供の姿で共有化していくことが大切である。

本県でも、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえ、幼児理解のための動画による記録を残し、園内研修や地区別の研修、幼保小の連携協議会等で活用していくことが考えられる。

② 福井県幼児教育研究センター

福井県は平成23年に教育庁義務教育課に幼児教育支援室が設置され、平成24年に生活学習館内（社会教育課）に幼児教育支援センターが開設されている。

幼児教育支援センターが担っているのは、幼保小接続のための研修と、人材育成研修（アドバイザー、園内リーダー）であり、法定研修（新規採用教員研修、中堅教諭等資質向上研修）は、教育総合研究所が担っている。

今回の視察先である福井県の特徴として、「幼保小の接続」が自治体として計画的に行われてきたことがあげられる。平成23年にモデル地域を指定し、実践公開を積み

重ね、平成27年3月にカリキュラム策定し、同年4月に県内全小学校区での保幼小接続をスタートさせている。また、園内リーダー、幼児教育アドバイザー認定者を対象としたフォローアップ研修では「遊びの中の学び」が分かる事例を持ち寄り、グループ協議の中で学び合う方法をとっている。日常の保育実践を持ち寄って子供の姿から育ちの姿を分析していく研修内容はとても参考になった。

幼稚園と小学校の教諭がお互いの教育内容を理解することを目的に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を共有していくことが大切だと感じた。

(6) 調査研究実行委員会の開催

- ・ 研究推進計画や取組の基本方針について説明
- ・ 新幼稚園教育要領の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」についての研究協議
- ・ 研修の在り方等について協議
- ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育課程について協議
- ・ 調査研究の成果と課題について協議

Ⅱ 研究の内容

【研究推進園による調査研究】

- 1 教育課程編成の手順
- 2 教育課程の確認
- 3 指導計画の改善
- 4 週案の改善
- 5 指導計画の評価と改善
- 6 教育課程の改善

II 研究の内容

【研究協力園による調査研究】

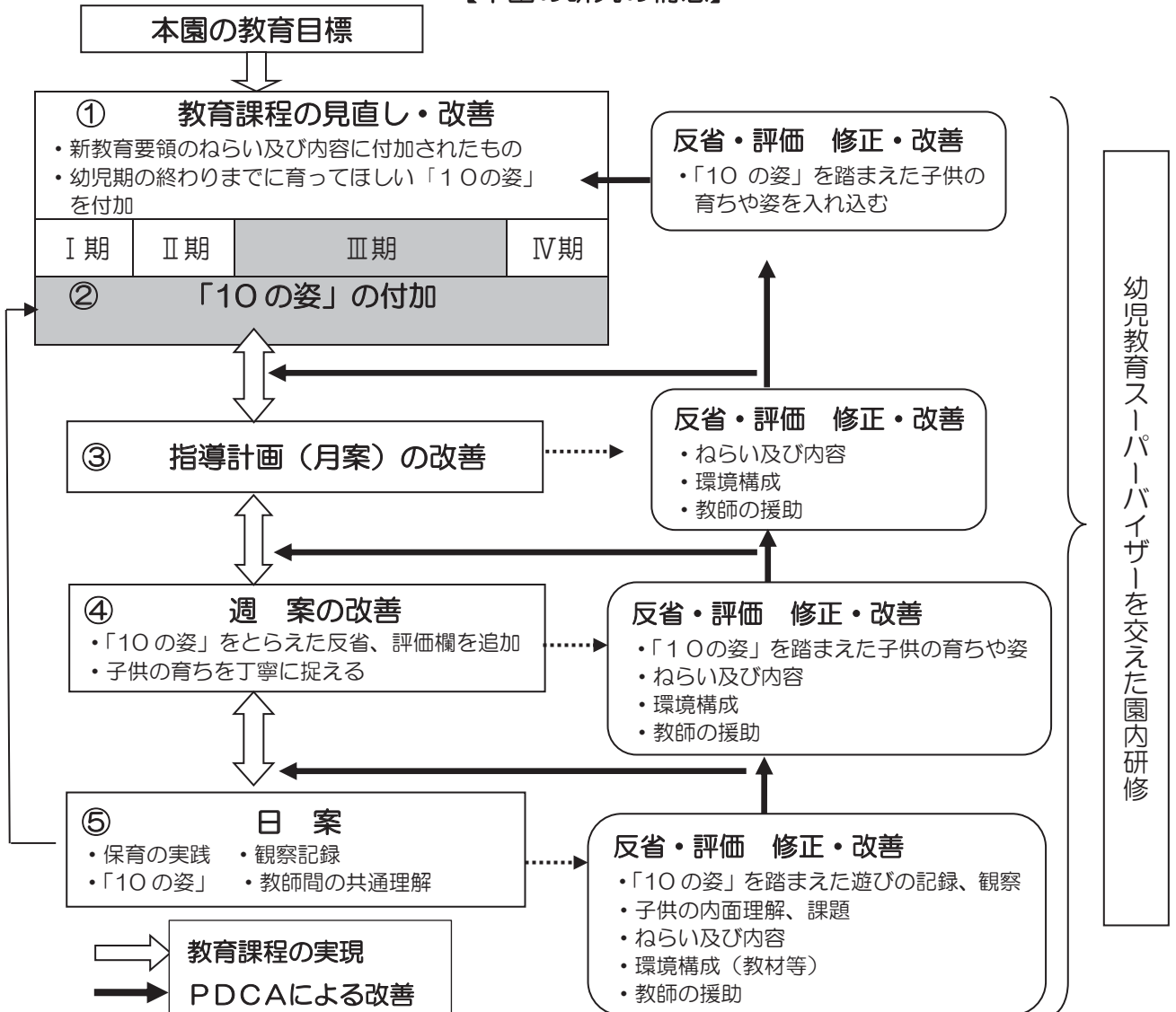
新幼稚園教育要領の全面実施に向け、日出町立豊岡幼稚園では新幼稚園教育要領の改訂の趣旨に基づき、教育課程、指導計画の編成に取り組むこととした。今回の改訂で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示されたことを踏まえ、新たな教育課程の編成を行うこととした。そこで、豊岡幼稚園において教育課程編成の手順をさぐり、見直し、改善を図った研究の内容についてまとめていく。

1 教育課程編成の手順

(5領域に新しく盛り込まれた内容が含まれているかどうかという視点で改善)

教育課程の編成を行うに当たって、以下のような手順で編成を行うこととした。

【本園の研究の構想】



まず、新幼稚園教育要領5つの領域に新しく盛り込まれたねらい及び内容が含まれているかどうかという視点で改善していくことにした。新幼稚園教育要領では領域「健康」で、「先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ」と「危険な場所や危険な遊び方、災害時の行動についての適切な行動を知る」という2つの内容が付加されたことを踏まえ、教育課程を見直した。他にも、Ⅲ期に「園生活に見通しをもち、必要なことに気付いて取り組む」というねらいを新たに付加した。また、期ごとに5領域が全て網羅されているかを確認し、一つずつのねらいと内容が、どの領域から設定したものかを確認、見直しと改善を行った。

<秘密の野菜として栽培して>

入園当初、野菜嫌いの子供が多く、給食では食べ残しが多く苦戦する様子が見られた。「先生や友達と食べることを楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ」という付加した内容から野菜の栽培を計画した。期待をもって育てられるようにという思いをこめ、あえて「秘密の野菜」と命名し、栽培活動に取り組んだ。毎日の水やりの成果が少しずつ形になって見えてくると、ますます期待が膨らむようだった。

花の色、形、葉っぱの色、感触、におい、様々な感動と共に育った秘密の野菜は、やがてトマトだと分かると、苦手な子供たちも「かわいい」「おいしそう」と変化が見られた。

収穫し、給食時間に分け合いながら食べると「あまい」「自分で育てたからおいしい」「嫌いだったけど好きになった」とトマト1つで会話と笑顔に包まれる給食時間となった。栽培、収穫の経験が、食べ物への興味・関心をもつきっかけ作りになったといえる。



このように5つの領域におけるねらい及び内容についての見直しを行い、さらに「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点から、教育課程を編成、改善していくこととした。

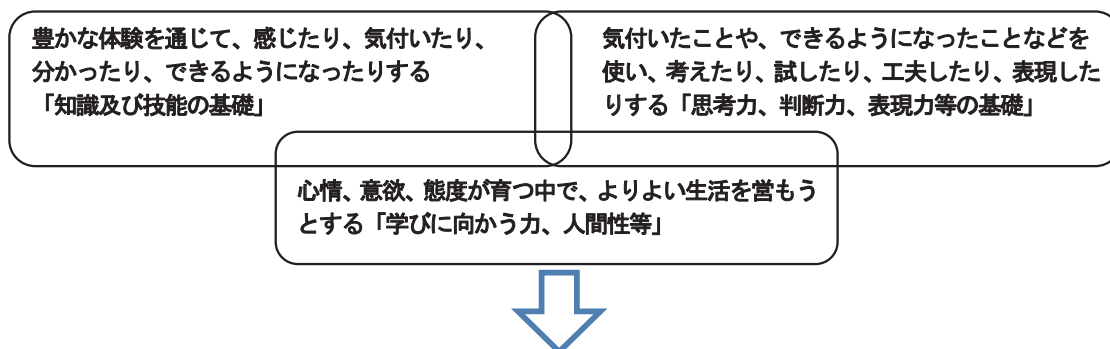
2 教育課程の確認

(「10の姿」につながるねらいと内容になっているかという視点で改善)

新幼稚園教育要領に新たに示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」とは具体的にどのような姿であるのか、園内で話し合い、共有化するために「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿再整理イメージ(たたき台)」を基に「10の姿」を項目ごとに整理することにした。園の遊びや生活の中で見られる実際の幼児の姿を書き出し、関連する項目とつなげながら表のようにまとめていった。(表1)

現行の教育課程について、「10の姿」につながるねらいと内容になっているかという視点で確認し、改善していくことにした。

表1 【豊岡幼稚園における幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の実際】



健康	①健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> *先生や友達と触れ合い、安定感をもって行動する。 *体を動かす様々な活動に目標をもって取り組み、根気強くやり抜く事で達成感や満足感を味わう。 *いろいろな遊びの中で、体を動かす気持ちよさや体を動かそうとする意欲を持つ。 *進んで戸外で遊び、いろいろな遊びの中で体の諸部位を十分に動かし楽しんで取り組む。 *様々な機会を通して食べ物への興味や関心を持ち、先生や友達と一緒に食べることを楽しんだり進んで食べたりするようになる。 *自分の健康に対する関心を持ち、体を大切にすることを進んで行う気持ちを持ち、健康な生活リズムを身に付ける。 *遊具や用具の安全な使い方が分かり、目的に応じて使う。 *危険な場所、危険な遊び方、災害時の適切な行動の仕方が分かり、状況に応じて安全な行動がとれるようになる。 *基本的な生活に必要な活動（衣服の着脱・排泄・食事）の必要性が分かり、自分で出来ることを考えたり工夫したりしながら意欲や自信をもって行動する。 *園生活における生活の仕方を身に付け、準備や片づけ等自分たちで生活の場を整えながら、見通しをもって行動する。
	②自立心	<ul style="list-style-type: none"> *自分でしなければならないことを自覚し、責任をもって行う。 *自分のことは自分で考えて行い、自分で出来ないことは実現できるように工夫したり、先生や友達の助けを借りたりして最後までやり抜こうとする。 *活動や遊びの中で、難しいことでも自分なりに考えたり工夫したりしてあきらめずにやり遂げ、満足感や達成感を味わう。 *身近な人たち（家族・友達・先生・地域の人々）と親しみ、認められたり支え合ったりする経験を積み重ね、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動するようになる。
	③協同性	<ul style="list-style-type: none"> *友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。 *友達の思いや考えに気付き、分かるように伝えたり、相手の思いを理解して伝え方を考えたり、我慢したり、気持ちを切り替えたりしながら分かり合えるようになる。 *友達との関わりの中で互いの感じ方や考え方に気付き、互いの良さが分かり、一緒に楽しみながら活動や遊びを進めていくようになる。 *友達との遊びや活動の目的を共有し、工夫したり協力したりしながら、友達と一緒に遊びを上げる楽しさや充実感を味わう。 *目的を共有する中で、話し合ったり考えをまとめたり、自分の役割を考えて行動するなどして目的が達成できるように、個々の良さを発揮しながら遊びを進める。
	④道徳性・規範意識の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> *よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動する。 *友達との関わりを深め、思いやりをもち相手の気持ちを大切に考えながら行動する。 *友達と楽しく生活する中できまりの大切さに気付き、守ったり必要に応じて作り替えたり、新たに作ったりして守るようになる。 *共同の遊具や用具に愛着をもち折り合いを付けながら大切に扱うようになる。 *自分の気持ちを調整しながら友達と折り合いを付け、きまりを守って遊ぼうとする。
人間関係		

人間関係	⑤社会生活との関わり	<ul style="list-style-type: none"> *様々な機会を通して地域や身近な人々、自分に関係のある人達と触れ合い、親しみの気持ちをもつ。 *家族や身近な人から大切にされていることに気づき、家族を大切にしようとする気持ちや感謝の気持ちをもつ。 *地域の人々との触れ合いを通して、自分が大切にされていることや自分が役に立っていることに喜びを感じるようになる。 *地域の様々な行事に参加し、自分の生活に関係の深い地域の人々との触れ合いの中で、自分たちが住む地域の良さを感じ、親しみをもつ。 *生活や遊びの目的に必要な情報を、伝えあったり活用したりしながら、情報に基づいて思いを合わせる。 *公共の施設を訪問したり利用したりする中で、みんなの物であることが分かり大切にしようとするようになる。 *園内外の行事において国旗に親しみ、国際理解への意識や思いが芽生えるようになる。
	⑥思考力の芽生え	<ul style="list-style-type: none"> *身近な環境に関わり、自分から気づいたり、発見を楽しんだり、考えたりしたことを遊びや生活の中で活用するようになる。 *様々な環境に関わる中で、不思議に思ったこと等を探究する。 *遊びの中で、予想したり確かめたり振り返ったりしながら興味や関心を深める。 *先生や友達の考えに触れ、自分の思いや考えを考え直したりして、新しい思いや考えを生み出したる喜びを感じる。 *物との多様な関わりの中で、物の性質や仕組みについて気づき考えて使うようになる。 *身近な物や用具の特性や仕組みを活かしたり工夫したりしながら使うようになる。
環境	⑦自然との関わり・生命尊重	<ul style="list-style-type: none"> *自然に触れる中で、自然の大きさや美しさ、不思議さ等を感じ好奇心や探求心をもって関わる。 *同じ物でも季節によって変化するものがあることが分かり、変化に応じて生活や遊びを変える。 *自然現象を遊びに取り入れたり、自然の不思議さを試したり、確かめたりして身近な事象への関心をもつようになる。 *身近な動植物の世話や栽培を通して、生き物への愛着や、生命の尊さに気づき、いたわったり大切にしたりする気持ちをもつ。
	⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	<ul style="list-style-type: none"> *生活や遊びの中で、数量、長短、広さや速さ、図形などに親しみ、必要感から数えたり比べたり組み合わせたりして生活や遊びに取り入れる。 *生活や遊びの中で標識や文字が人と人をつなぐ役割をもつことに気づき、読んだり書いたりして生活や遊びに取り入れて使うようになる。
言葉	⑨言葉による伝え合い	<ul style="list-style-type: none"> *生活の中で必要な言葉が分かり場に応じて使う。 *親しみをもって日常の挨拶をする。 *先生や友達の言葉や話に興味や関心もち、親しみをもって聞いたり、話したりする。 *したり、見たり、聞いたり、感じたり考えたりしたことを自分なりに言葉で表現する。 *したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。 *相手の話を注意して聞き、自分の思いや考えを相手に伝えるように話す。 *言葉を通して先生や友達と心を通わせる。 *絵本や物語などに親しみ、興味をもって聞き、言葉のもつ音の美しさや意味の面白さ、想像する楽しさを味わったり言葉で表現したりすることを楽しむ。 *いろいろな体験を通して言葉や表現に関心が高まり、言葉の獲得に楽しさを感じる。 *生活の中で、文字を使って思いや考えを伝える喜びや楽しさを味わう。
	⑩豊かな感性と表現	<ul style="list-style-type: none"> *生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、様々な表現を楽しみ、感じたり考えたりするようになる。 *生活や遊びの中で感じたことや考えたことを音や動き等で楽しんだり、作ったり、演じたりして表現することを楽しむ。 *友達と一緒に工夫して創造的な活動を生み出していくようになる。 *友達と一緒に表現する過程を楽しみ、認め合うことで表現する意欲が高まるようになる。 *音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単な楽器を作ったりする楽しさを味わう。 *描いたり作ったりすることを楽しみ、遊びに使ったり飾ったりする。
表現		

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を項目ごとに表にまとめ、その視点から見直すと現行の教育課程の課題が明らかになってきた。現行の教育課程はⅠ～Ⅳの期ごとにねらい、内容を示しているが、それぞれの期におけるねらいと内容が大づかみで漠然としており、幼児の育ちをどのように見通しているのかが分かりにくいものであった。「10の姿」を視点にもつと、「幼児の育ちの姿は5歳児の前半と後半でねらいは同じでよいのか」「どのような育ちの姿を描いてねらいを位置付ければよいのか」という見直しが必要になってきた。そこで、表1にまとめた10項目の視点から見直し、期ごとに細かく幼児の姿を描きながらねらいを付加修正していくことにした。

また、修正前の教育課程は、その時期の主な行事や活動を中心に構成されていたことに気付いた。そのため、行事や活動から環境構成のポイントが示され、主体的な遊びの中での具体的な子供の姿が見えにくいものになっていた。例えば、「忍者ごっこ（9月）」をみると、「友達と遊ぶ中で、互いのよさを認め合ったり協力し合ったりする」という内容に合致する。「10の姿」を視点にもっていない時は、「協同性の育ち」として大づかみで捉えていた。しかし、「10の姿」を念頭に置いて「忍者ごっこ」の子供の姿を想定してみると、

- ・マットや平均台、積み木を使い体の各部位を動かしながら遊ぶ【①健康な心と体】
- ・明日の遊びに活かせるような片付け方の工夫をする。【①健康な心と体】
- ・手先を使って手裏剣を作る・教え合う【②自立心】【④道徳性の芽生え】
- ・役割分担をする。（手裏剣を投げる子供、手裏剣をとって渡す子供）【③協同性】
- ・修行の場や配置を考える【⑥思考力】
- ・遊び会議でルールを考え共有する【④規範意識の芽生え】【⑨言葉による伝え合い】
- ・手裏剣は3回までと文字で表す【⑧文字への関心】
- ・積み木の数や置き方を工夫する【⑧数量や図形】
- ・言葉の面白さを感じる（ニンニン・〇〇でござる等）【⑩豊かな感性と表現】

等の子供の育ちを具体的に捉えることが出来た。

こうして、教師は一人一人の楽しさや気付き等を把握し理解した上で、遊びの発展に向けた用具の提示をしたり、楽しさを深める時間や場の確保をしたり環境構成を改善することが出来た。また、育ちが具体的に見えてくることで、遊びの教師の援助の視点が明確になり、適切な援助をすることが出来る。このように、子供がこの遊びを通して、どのように学び、支え、伸ばしていくかを考える成長を捉える方法として「10の姿」を使ってきた。「10の姿」からの育ちを繰り返し捉えながら、遊びの中から実際に見られた子供の育ちを考慮し、◎数量や文字、時間などに興味をもち生活の中に取り入れて遊ぶ。◎好きな遊びを楽しみながらやり遂げようとする。◎自分達で遊びの場を整え、身近に使うものを大切にして丁寧に扱う。等の項目を教育課程に追加し改善を行った。

【修正前】 教 育 課 程 (5 歳児)

期	I 期	II 期	III 期	IV 期
月	4月～5月中旬	5月下旬～7月	9月～12月	1月～3月
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> 園生活に慣れ、安定した気持ちで過ごす。 安全な登降園が分かる。 友達に関心を持ちながら、自分の好きな遊びを見付けて遊ぶ。 園生活に必要な約束を知り、守ろうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 気の合った友達と互いに考えを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。 試したり、工夫したりしながら、いろいろな活動に取り組む。 身近な物や自然物などに進んで関わりながら遊ぶ。 小学校に親しみ、触れ合う。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と考えを出し合いながら遊びを進めていく楽しさを味わう。 グループの友達と共通のめあてに向かって工夫しながら遊ぶ楽しさを味わう。 自分の力を十分に発揮しながら、いろいろな活動に進んで取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達や自分の存在が、遊びに生かされているという実感を持ち、のびのびと活動する。 入学への期待や成長の喜びを持ち、園生活を楽しむ。
内 容	<ul style="list-style-type: none"> 幼稚園で遊ぶことに楽しさを感じ、喜んで登園する。 持ち物の置き場所を知り自分で始末する。 登降園の道順や危険な場所を知り、安全な行き帰りの仕方が分かる。 先生の言葉や話に興味を持ち、親しみをもって聞こうとする。 興味のある遊び場を見付け、先生や友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。 友達と楽しく生活する中で、決まりの大切さに気付く。 草花や虫などに触れ、春の自然の美しさや不思議さに気付く。 飼育動物や栽培物に親しみをもって接し美しさや不思議さに気付く。 	<ul style="list-style-type: none"> 気の合う友達と誘い合って遊ぶ。 自分のイメージしたものを、身近な道具や素材を使って試したり、工夫したりして表現しようとする。 自分の思いや考えを友達に伝え、友達の思いや考えを受け止めながら遊ぶ。 友達と一緒に戸外で遊ぶ楽しさや体を動かす心地よさを味わう。 高齢者と触れ合って、親しみや思いやりの気持ちをもつようになる。 5年生と一緒に芋植えをし、収穫を楽しむにする。 身近な小動物と遊んだり世話をしたりして親しむ。 いろいろな水遊びを楽しむ。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動的な遊びに意欲をもって取り組み、体を動かす心地よさを味わう。 共通の目的に向かって取り組み、自分なりの力を出していくことで喜びを感じる。 感じたことや考えたことを友達と一緒に言葉や動きなどで工夫して表現し、演じて遊ぶ楽しさを味わう。 友達と遊ぶ中で、互いのよさを認め合ったり、協力し合ったりする。 秋の自然に関心を持ち、工夫して遊びに取り入れえたり秋を感じながら遊んだりする。 5年生と芋掘りをして、収穫の喜びを味わう。 高齢者と接し、いたわりの気持ちをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> 多くの人の前で表現するなどして、自信をもったり、成長を感じたりする。 互いの考えを認め合い遊びに対して見通しがもてるようになる。 日常生活に必要な簡単な文字や数量に興味・関心をもつ。 冬の自然現象に興味を持ち、不思議さに気付いたり、疑問をもったり見たりする。 一年生になることへの期待と喜びを感じ、進んで遊びや仕事に取り組む。





【見直した教育課程】 教育課程 (5歳児) 日出町立豊岡幼稚園

☆(10の姿から前期に見直したもの) ★(10の姿から後期に見直したもの)

期	I 期	II 期	III 期	IV 期
月	4月～5月中旬	5月下旬～7月	9月～12月	1月～3月
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活に慣れ、安定した気持ちで過ごす。健【①】 ☆安全な登降園の仕方や安全な生活に必要な態度を知る。健【③】 ・友達に興味をもちながら、自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ。人【①】 ・園生活に必要な約束を知り、守ろうとする。人【③】 ☆身近な自然や生き物に触れ親しみや興味をもつ。環【①】 ☆先生や友達と返事や挨拶をしたり、生活に必要な言葉が分かったりするようになる。言【①】 ☆園庭に咲く草花の美しさを楽しむ。表【①】 ☆先生や友達と一緒に歌や簡単なリズムを楽しむ。表【②】 	<ul style="list-style-type: none"> ☆健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。健【③】 ・気の合った友達と互いに考えを出し合いながら遊ぶ楽しさ味わう。人【①】言 ・小学生と親しみ、一緒に活動する楽しさ味わう。人【②】 ・身近な物や自然物などに進んで関わりながら遊ぶ。環【②】 ☆自分の気持ちを言葉で表現する楽しさ味わう。言【①】 ・試したり、工夫したりしながら、いろいろな活動に取り組む。表【③】 	<ul style="list-style-type: none"> ☆生活に見通しをもち、必要なことに気付いて取り組む。健【③】 ・自分の力を十分に発揮しながら、いろいろな活動に進んで取り組み達成感を味わう。健【②】 ・友達と考えを出し合いながら意欲的に遊びを進めていく中で友達の良さに気付く。人【①】 ・友達先生の話や言葉を聞いたり話したりしながら、伝え合う喜びを味わう。言【②】 ・グループの友達と共通のめあてに向かって協力したり工夫したりしながら遊ぶ楽しさ味わう。人【②】 ☆身近な自然や事象を見たり触れたりして考えたり感動したりする。環【①・③】表【①】 ☆感じたこと、考えたことを友達と工夫しながら様々な方法で表現する。表【②】 	<ul style="list-style-type: none"> ☆生活や遊びに見通しをもち、友達と一緒に意欲的に進める。健【③】 ☆就学への期待や成長の喜びをもち、園生活を楽しむ中で、友達とのつながりを深める。人【②】 ☆身近な生活に必要な事象や自然現象に関心をもち、興味をもったかかわったり、考えたりして生活を広げていく。環【②・③】 ☆場に応じた話し方を考え、人の話をきちんと聞く姿勢を身に付ける。人【③】言【③】 ☆友達といろいろな活動に楽しんで遊びながら、自分の感じたことを言葉や体で豊かに表現し合い、互いの良さを認め合う。表【②・③】言【③】
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園で遊ぶことに楽しさを感じ、喜んで登園する。健① ・興味のある遊び場を見付け、先生や友達と一緒に遊ぶ楽しさ味わう。健② ☆先生や友達と食べる事を楽しみ、食べ物への興味や関心をもつ。健⑤ ・持ち物の置き場所を知り、自分で始末したり遊んだ後の片付けをしたりする。健⑥ ・登降園の道順や危険な場所を知り、安全な行き帰りの仕方が分かる。健⑩ ☆危険な場所や危険な遊び方、災害時の行動についての適切な行動を知る。健⑩ ・友達と楽しく生活する中で、きまりの大切さに気付く。人① ・草花や虫などに触れ、春の自然の美しさや不思議さに気付く。環① ・飼育動物や栽培物に親しみをもって接し美しさや不思議さに気付く。環⑤ ★クラスや個人、グループ等のマークに気付く。環⑩ ☆先生の言葉や話、絵本などに興味をもち、親しみをもって聞くこととする。言① ☆先生や友達に親しみをもって返事や挨拶をする。言⑤⑥ ☆先生や友達と一緒に歌を歌ったり、体を動かしたりすることを楽しむ。表⑥・人① ★かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり飾ったりする。表⑦ 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に戸外で遊ぶ楽しさや体を動かす心地よさを味わう。健②・③ ・様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。健④ ☆水の心地よさを感じながら、いろいろな水遊びを楽しむ。健④ ☆生活に必要な身の回りの活動を自分でする。健⑦・人②・③ ☆自分の体に関心をもち、適切な休息の取り方に気付くとともに、手洗いやうがい、汗の始末、衣服の調節等を進んでする。健⑨ ・自分の思いや考えを友達に伝え、友達の思いや考えを受け止めながら遊ぶ。人⑥・言④ ★して良いことや悪いことがあることに気付く。人⑨ ☆友達と誘い合い、簡単なルールを守りながら遊ぶ。人⑩ ・高齢者や小学生と触れ合って、親しみや思いやりの気持ちをもつようになる。人⑩ ★身近な自然に接する中で、季節の変化に気付く。環③ ・栽培物の生長に関心をもちたり、収穫への期待や喜びを味わったりする。環⑤ ☆身近な小動物と遊んだり世話をしたりして親しみ生命の大切さに気付く。環⑤ ★生活の中で数値に関心をもち。環⑨ ☆自分の気持ちや要求を言葉で表現し伝えようとする。言②・③ ★絵本や物語などに親しみ、言葉の楽しさや美しさに気付く、想像する楽しさを味わう。言⑦・⑧・⑨ ★生活の中で、様々な形、音、色などに気付いたり感じたりする。表① ★生活の中で、美しい物や心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。表② ☆身近な素材等を使った活動の中で、そのものの特徴や性質が分かって遊びを楽しむ。表⑤・環② ・自分のイメージしたものを、身近な道具や素材を使って試したり、工夫したりして表現しようとする。表⑧ 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動や遊びに意欲をもって取り組み、体を動かす心地よさを味わう。健②・③ ・栽培物の収穫の喜びを味わい、調理して食べる楽しさを味わう。健⑤ ☆健康な体作りに関心をもち生活のリズムを整えたり、好き嫌いを減らしたりして健康な生活習慣を身に付ける。健⑥ ☆自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。健⑧ ★自分の健康に関心をもち、病気や感染症の予防などに必要な活動を進んで行う。健⑨ ☆災害時の行動が分かり、先生や友達と一緒に機軸に避難する。健⑩ ★好きな遊びを楽しみながら、やり遂げようとする。人④ ・友達と遊ぶ中で、互いのよさを認め合ったり、協力し合ったりする。人⑦・⑧ ・共通の目的に向かって取り組み、自分なりの力を出すことで喜びを感じる。人⑧ ★困っている友達に気付きたいやりの気持ちをもつ。人⑩ ☆自分たちで遊びの場を整え、身近に使うものを大切に丁寧に扱う。人⑫・環⑦ ・高齢者や未就園児、地域の人々と接し、いたわりや思いやりの気持ちをもつ。人⑩ ☆自然に触れて生活し、大きさ、美しさ、不思議さに気付く。環① ★生活の中で、様々な物の仕組みや性質を感じ取り、気付いたり予想したり工夫したりしながら多様な関わりを楽しむ。環② ★季節により自然や生活に変化があることに気付く。環③ ・秋の自然に関心をもち、工夫して遊びに取り、入れたり秋を感じながら遊んだりする。環④ ・身近な動植物に、いたわりや畏敬の念をもつ。環⑤ ☆数値や文字、時間などに興味をもち生活の中に取り入れて遊ぶ。環⑥・⑨ ★身近な物や道具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連付けたりする。環⑧ ★日常生活に必要な簡単な数字、文字、図形などに関心をもち。環⑩ ☆行事を通して国旗に親しむ。環⑫ ★相手の話を注意して聞いたり、相手に分かるように話したり言葉で伝え合うことを楽しむ。言④ ★様々な出来事を通して、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。表③ ★感じたことや考えたことを自ら表現する喜びを味わう。表④ 	<ul style="list-style-type: none"> ☆食事の大切さを知り、進んで食べる気持ちをもち、マナーを守って楽しく食べる。健⑤ ☆就学への期待や喜びを感じ、進んで遊びいろいろな活動に充実感を味わいながら見通しをもって取り組む。健⑥ ☆自分たちのめあてをもって繰り返し挑戦し、達成する喜びを味わう。人④ ★共通の目的に向かって、友達と一緒に協力し、最後までやり遂げようとする。人④⑧ ★積極的にいろいろな友達と関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。人⑤ ☆自分たちで遊び方を考えたりルールを決めたりしてみんなで楽しむ。人⑧ ☆園生活の中で、やっていいこと悪いことを自分で考えて場面に応じた行動をする。人⑨ ☆生活を共にしてきた友達や身近な人たちへの感謝の気持ちをもつ。人⑩ ・冬の自然現象に関心をもち、取り入れて遊んだり不思議さや変化に気付いたりする。環④ ★自分なりに比べたり、関連付けたりしながら、考えたり、試したり、工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。環⑧ ・日常生活に必要な簡単な数字、文字、図形などに関心をもち、考えたり遊びや生活に取り入れて使ったりする。環⑩ ★日本の伝統文化に親しみ、数量や文字、時間等に興味をもち生活の中に取り入れて遊ぶ。環⑥・⑨・⑫ ★日常生活や遊びの中で、文字で伝える楽しさを味わう。言⑩ ☆考えたことや感じたことを分かるように話したり相手の話を注意して聞いたりしながら、言葉で伝え合うことを楽しむ。言④ ・トラブルや疑問、困ったことを自分たちで解決していこうとする。人⑩⑫ ・感じたことや考えたことを友達と一緒に言葉や動き等で工夫して表現し、演じて遊ぶ楽しさを味わう。表④ ・材料や用具を目的に合わせて遊び、のびのびと表現しようとする。表⑤⑧ ★友達のよさに気付く、一緒に活動する楽しさを味わう。人⑦ ★友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見出し、工夫したり協力したりする。人⑧

教育課程のⅢ期（9月～12月）においては、観察記録より実際に捉えた園児の姿をもとに、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」とのつながりを考慮して「ねらい及び内容」を修正し、改善した。観察記録は、保育の中で見られた実際の子供の育ちから、「10の姿」につながる行動や発言を担当がメモに記録しておいた。それを職員室にいる先生と保育の合間の時間を利用して共有していった。教師の行った援助が子供の姿につながった姿や、「あの子に対してはこうすればよかった」など、援助や環境の構成について他の方法を考え、次に生かせることはないか話し合った。また、毎週水曜日の研修の時間に教師間で子供の姿を共有し、教師の行った援助が子供のどういう姿につながったのか、また子供の姿や育ちを「10の姿」と関連付けながら確認した。さらに子供の実態に合う、より適切な援助や環境構成について考え、指導計画の改善を行った。

スーパーバイザーも子供の様子を写真に記録し、担任とは違った視点での子供の見取りやより深い多様な捉えについて、教師間で共有することができた。共有した内容を「10の姿」とのつながりを考慮しながら1枚のシートにまとめることで、自園の子供の姿で具体的に捉えることにした。（参考資料）

日出町立豊岡幼稚園		5歳児
事例 「バッタが死んだ」		5歳児<Ⅲ期>10月
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p style="font-size: small;">(幼児の実態)</p> <p>虫取り探検で捕まえた虫を飼育しながら、虫の死に直面した。子供達は、餌が足りないことに気付いたり、図鑑で調べお家をきれいにしようとして洗ったり、餌を増やしたりなど試行錯誤しながら、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な生き物への接し方を考え大切にする気持ちをもって関わるようになってきている。</p> </div>		
<p style="text-align: center; font-size: small;"><子供の姿></p> <div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="font-size: small;">(幼児の言動や姿)</p> <p>S児「先生また1匹死んでいる！」 教師「本当だね。」 子供達「なんで？」 Y児「ご飯も、お水もあるよ」 教師「何でだろうー。先生にもわかんない。」 H児「お部屋がきたなかったのかな？」 教師「そうかも、汚れているね。」 Y児「じゃあきれいにしよう。虫ごを洗おう。」 と、友達と洗いに行く。 虫かごがきれいになる。 H児「寒くなったからかな？お布団みたいな探そう」と、枯れ葉を探してきて入れる。 H児「見て見て、バッタが皮脱いでる。」 教師「どのバッタが脱いだの？」 M児「ツチイナゴ」と、指さして言う。 教師「えー！小さいバッタがこんなに大きくなったの？」 子供達「不思議ー！！」と、声を揃えて言う。</p> </div>	<p style="text-align: center; font-size: small;"><教師の援助・考察></p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="font-size: small;">【教師の援助や環境構成】</p> <p>クラスのみんまで大切に飼っていたはずのバッタが突然死んでしまい、戸惑っている子供達。どうして死んでしまったのか……。思い思いの気持ちを教師や友だちに伝えながら、解決方法を探っていく様子に教師も共感していくようにする。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="font-size: small;">【考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供の気付きに教師が共感しながら、生き物の死に向き合いながら、その原因を考えている。また、解決するための方法も考え合い、生き物の命を大切にしようとしている。 ・注意して見ていると、脱皮していることに気付き、伝え合っている。 <p>◇自分達が捕まえた昆虫に心動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な生き物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にする気持ちを持って関わるようになっていくのではないかと…。⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大切な生き物の死に、どうしたら死なないのかを友達と一緒に考え、考えたことをやってみている。 <p>◇友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、やりとげようとしているのではないかと…。⑧</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center; font-size: small;">「10の姿」とのつながり</p> <p style="text-align: center; font-size: x-small;">(3)「協同性」 (7)「自然との関わり・生命尊重」</p> </div>	

3 指導計画の改善（教育課程を踏まえたものになるよう改善）

<長期指導計画（月案）の改善>

「10の姿」を視点にもつことで、これまで5つの領域で描いていた子供の姿が一つ一つ、より焦点化されるようになってきた。「10の姿」を念頭に子供の姿を描くと、そこで必要な体験、ふさわしい生活ができるように環境の構成を計画に位置付けていかなければならないことが分かってきた。

そこで、現行の指導計画を修正し、幼児の主体的な活動を生み出すための具体的な環境の構成や教師の援助を書き込めるようにした。そして、その月の終わりに反省・評価をし、個々の幼児の興味や関心等に即したものになるように「環境構成」や「教師の援助」の見直しや工夫をし、修正した部分を赤色で書き込むことにした。

【修正前】

10月指導計画			
幼児の姿		ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○ 共通の目的に向かって、友達と一緒に考えを出し合って、遊びを進めていく喜びを感じる。 ○ 友達と一緒に、十分体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。 ○ お年寄りの話を聞いたり、一緒に遊んだりしてふれあいをもつ。 ○ 目的に向かって取り組み、自分なりの力を出していくことで、喜びを感じとる。
		内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と一緒に必要なものを考えたり、準備したりして取り組み、やり遂げた満足感を味わう。 ○ 友達とのかかわりを深め、相手を思いやる心をもつようになる。
週	予想される姿	環境援助のポイント	
1週	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の力を発揮しながら遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・運動会ごっこ（かけっこ、リレー、玉入れ、応援団） ・リズム遊び ○ 園内運動会に参加する。 ○ いろいろな製作活動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・動物の絵を描く。 ・遊びに必要な物を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戸外でのびのびと体を動かし、友達と運動することを楽しくるように環境を整える。 ○ 自分達で遊びのルールを決めたり変えたりする姿を見守る。様子を見ながら遊び方やルールについてみんなで話す機会をもち、共通化を図り、楽しみながら自分達で遊びを進めていけるようにする。 ○ 音楽に合わせて体を動かし表現する楽しさを味わえるように配慮する。 <ul style="list-style-type: none"> ・見てもらいたいという気持ちが満足できるように場作りをしたり励ましたりする。 ・子どもの表現を大切に、一緒に創り出す喜びや表現する楽しさを共感する。 ○ 自分の思いを出したり、友達の話を聞いたりすることができるように、お互いの気持ちを伝えていくようにする。 ○ 秋の自然に目を向けるようにする。 	
5週	<ul style="list-style-type: none"> ○ 秋の空やコスモスを見る。 		
	基本的な生活習慣	行事	家庭連絡
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 手洗い、うがいをする。 ○ 食事の前の手洗い ○ 食事の後始末 ○ 遊具や用具の正しい使い方 ○ 最後で頑張る。 ○ 咳をする時は、口に手をあてる。 ○ 厚着をしない。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前期終業式・後期始業式 ○ アフリカン・サファリ見学 ○ 園内運動会(豊岡小体育館) ○ 音楽集会 ○ 就学時健康診断・知能テスト ○ 絵本の読み聞かせ会 ○ 誕生会 ○身体測定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 10月園だより ○ クラスだより ○ 園内運動会 ○ 給食献立表 ○ 衣服の調節 ○ 成長の記録(前期) ○ アフリカン・サファリ見学
			人権教育の視点
			<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びの中で自分の思っていることを話す。 ○ 飼育を通じて生き物を大切にすることが分かる。 ○ 役を交替して仲良く遊ぶ。 ○ ルールを守りみんなで協力する。
			食育の視点
			<ul style="list-style-type: none"> ○ 食事の準備から片付けする中で、自分から進んで行う。



【見直した指導計画】

10月指導計画				
幼児の姿	<ul style="list-style-type: none"> ○ 戸外で体を使って遊ぶことが多くなり、友達とくり返し遊ぶ。 ○ リレーや競走遊びをすることで園内運動会の関心が高まっている。友達の刺激を受けたり、必要なことを考えたりして、自分たちの興味をもったことを実現しようとする。 ○ 自分なりに試行錯誤をくり返しながら遊びを楽しんでいる。 ○ 虫を見付けたり、どんぐりを探したりなど自分たちで秋の自然に気付けて触れたり、友達と話したりし遊びに取り入れようとする。 	<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分たちなりに考えたり、工夫したり試したりして、遊びを進めていく楽しさを味わう。 ○ 目的に向かって取り組み、自分なりの力を出していくことで、喜びを感じとる。 ○ 友達と一緒に、十分体を動かして遊ぶ楽しさや心地よさを味わう。 ○ 身近な自然や事象を見たり触れたりする中で、発見したり、感動したりする。 ○ 自分たちで考えたことを遊びの中で、実現したり表現したりする楽しさを味わう。 	<p>内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びのめあてに向かって自分たちなりに工夫したり試したりする。 ○ 友達の考えやイメージを聞き、思いを汲み取ろうとする。 ○ 思いきり走ったり、体を動かしたりする喜びを感じる。 ○ 挑戦したり、競ったりする中で自分の力を思いきり発揮する心地よさを味わう。 ○ 友達との関わりを深め、相手に思いやりの心をもつようになる。 ○ 身近な秋の自然物に関心をもち、使って遊ぶ。 ○ 友達とのやりとりを十分にし、思いを伝え合う。 	
		<p>週</p> <p>予想される姿や遊び</p>	<p>環境構成と教師の援助（□環境の構成 ★教師の援助）</p>	
1週	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の力を発揮しながら遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・運動会ごっこ（かけっこ、リレー、玉入れ、応援団） ・リズム遊び ○ 園内運動会に参加する。 <ul style="list-style-type: none"> ・競走する。 ・係の仕事をする。 ・運動会に必要な大道具や小道具を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> □遊具や用具の出し入れしやすい場や置き方を一緒に考えていく。 □自分たちでやりたいことにじっくり取り組めるように、遊びの場や時間を確保する。 □遊びや活動の中で一人一人の良さや頑張っている点などを認めたり、友達に伝えたりし、クラスの話題に取り上げたりしていく。 □運動会当日へのめあてや見通しがもてるように、カレンダーやプログラム、練習や製作について書いたものを掲示したり、全体で話し合う時間を設けたりする。 □園内外の自然に触れる場所や状況をあらかじめ把握しておく。 ★自分たちで遊びのルールを決めたり変えたりする姿を見守る。様子を見ながら遊び方やルールについてみんなで話す機会をもち、共通化を図り、楽しみながら自分たちで遊びを進めていけるようにする。 ★教師も一緒に参加して遊びの楽しさを共感し、みんなの気持ちを高めていけるようにする。 ★一人一人の頑張っている態度・意欲や進歩などを認めていく。 ★運動会での競技や役割では自信をもって行えるように励ましの言葉をかける。また、その内容や動きなども子供たちと一緒に考えることで、主体的に取り組めるようにする。 ★仲間とのぶつかり合いや葛藤を成長するためのステップとして見守ったり、励ましたりし仲間の良さに気付けるような話し合いをしながら、助け合う気持ちを養っていく。 ★園内外の秋の自然に触れる機会をもち、目を向けるようにする。 ★子供の表現を大切に、一緒に創り出す喜びや表現する楽しさを共感する。 		
5週	<ul style="list-style-type: none"> ○ いろいろな製作活動をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・遊びに必要な物を作る。 ○ アフリカン・サファリ見学に行く。 <ul style="list-style-type: none"> ・動物に関心をもち、見たり触れたりする。 ○ 秋を感じながら遊ぶ。 <ul style="list-style-type: none"> ・木の葉や木の実を使って遊ぶ。 			
<p>基本的な生活習慣</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 手洗い、うがいをする。 ○ 食事の前の手洗い ○ 食事の後始末 ○ 遊具や用具の正しい使い方 ○ 最後まで頑張る。 ○ 咳をする時は、口に手をあてる。 ○ 厚着をしない。 		<p>行事</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前期終業式・後期始業式 ○ アフリカン・サファリ見学 ○ 園内運動会(豊岡小体育館) ○ 音楽集会 ○ 就学時健康診断・スクリーニング検査 ○ 絵本の読み聞かせ会 ○ 誕生会 ○身体測定 	<p>家庭連絡</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 10月園だより ○ クラスだより ○ 園内運動会 ○ 給食献立表 ○ 衣服の調節 ○ 成長の記録(前期) ○ アフリカン・サファリ見学 	<p>人権教育の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 遊びの中で自分の思っていることを話す。 ○ 飼育を通じて生き物を大切にすることが分かる。 ○ 役を交替して仲良く遊ぶ。 ○ ルールを守りみんなで協力する。 <p>食育の視点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 食事の準備から片付けする中で、自分から進んで行う。

見直しをしていく中で、I期のねらいへの位置付けが薄いと思われる領域があることが分かり、領域「環境」の「身近な自然や生き物に触れ親しみや興味をもつ」についてのねらいを付加していった。また、地域の自然や公共施設、行事などの資源や、地域の人材などを積極的に活用し、幼児が豊かな生活体験を得られるような環境の構成を計画に取り入れることにした。

まず、子供たちが地域の自然に親しむためにどのような環境の構成をすればよいかを考え、地域の自然探検に行く計画をした。探検に行くに当たり場所の選択を職員間で話し合い、豊岡地区を知ってもらいたいという願いから、魚見桜、八津島神社、島山などを候補に上げた。その時期の子供の興味を踏まえた上で、自然を体験しながら身近な生き物に接する環境が整っている場所として、高台にある広い野原である魚見桜を選択した。

また、生き物に対する興味・関心が高い子供たちに、より豊かな体験や話ができる地域の方の存在が必要であると感じた。そこで園長に相談したところ、小学校のスクールアシスタント（SA）である樹木医の村松さんを紹介していただきお願いすることとした。

村松さんは魚見桜に到着するとすぐに、園の子供たちのためにコスモスの迷路をつくり、子供たちは迷路や虫取りを体験することができた。また、道の花や草木に詳しく、一つ一つ丁寧に花の名前や遊び方などを説明してくれた。10月には秋の自然に触れ、自然の大きさや美しさ、季節による変化の様子や不思議さに気付いてほしいという願いのもと、別府湾に面した島山へ秋見つけに出かけた。その月の反省を基に、子供から自発的に出た遊びや活動を青で追加し、翌月に加えたいねらい及び内容等を朱書きで示すようにした。



幼児期の生活に即して具体的な指導計画を作成することを心がけ、その時期の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」や幼児の発達を踏まえた遊びの展開を見通すことを大切に作成している。

4 短期指導計画（週案）の改善

（「10の姿」を捉えて反省と評価を記入する欄を追加して子供の育ちを捉える）

従来の週案は反省・評価欄がなく、配慮・環境のポイントのみであったため、子供の実態とつながらず具体的な援助がイメージしにくいということから、週案の形式を見直すことにした。そこで、環境構成と教師の援助という項目を新たに設け、教師の反省・評価をもとに翌週の環境構成や教師の関わりに生かせるように改善した。評価には、関連する「10の姿」についての視点も記入するようにした。

【見直した週案の様式】

週 案					日出町立豊岡幼稚園				
月		第 週		日 ~ 日					
男児		名・女児		名 計		名		きりん・うさぎ組保育者：()	
前週の子どもの姿									
○									
○									
○									
予想される姿や遊び							今週の歌♪		
日(月)		日(火)		日(水)		日(木)		日(金)	
週のねらい									
◎									
◎									
◎									
内 容									
○									
○									
○									
○									
□環境の構成と★教師の援助									
□									
□									
□									
□									
□									
★									
★									
★									
★									
★									
健康・食育・安全（基本的生活習慣）			預かり保育			家庭連絡			
*			○						
*			○						
*									
反省と評価（「10の姿」を捉えて）									
◆									
◆									
◆									
◆									

新しい週案を用いて、「10の姿」を視点にした評価をしながら保育の改善を行って行く中で、現行の指導計画に沿った保育では、育ちの姿の見通しがもちにくいと思われる項目があることに気付いた。例えば、「思考力の芽生え」の項目である。「思考力の芽生え」も育ちの過程があり、子供は自分なりに考えて試したり判断したりする姿が様々な遊びの中で見られる。これまでもリレーごっこや鬼ごっこなどからルール必要性を感じて考えたり、泥団子を綺麗に作るためにはどのくらい水を使えばいいかを考えたり工夫したりする姿は見られていた。しかし、製作遊び等では、廃材の特性を生かして何かを作り出すというより、そのままの形で使ったり何かに見立てて使ったりすることで満足する様子や、友達と一緒に思いや考えを出し合いながら作るより一人で黙々と作ることに満足するという育ちの段階だった。「10の姿」を踏まえて週案の反省を行う中で、子供がその物や現象に不思議さや面白さを感じ、こうしてみたいという願いをもち、好奇心や探究心を引き出すような環境の構成が足りないのではないだろうか。友達の考えに触れ、いろいろな考えがあることに気づき、自分の思いや考えを見直したりする場が少ないのではないだろうか。そのために、物の仕組みや性質などに関心をむけ、「何故だろう、どうしたらいいのだろうか？」「〇〇したら△△になるかもしれない」と試行錯誤しながら友達と一緒に遊びを味わう場面が生まれるように、教師の援助や環境の構成を計画していく必要があると考えた。

そこで、9月の地域探検で拾った、それぞれの思いが込められた大切な落ち葉やどんぐりを遊びに生かし、「思考力の芽生え」「数量と図形」「豊かな感性と表現」を特に意識して保育実践を行うこととした。子供たちは大切などんぐりを使ってゲームセンターごっこをしたいという願いをもった。教師が様々な素材や道具を準備することで、牛乳パックをつなげてどんぐりのコースをつくったり、どんぐりが飛び出さないようにトイレットペーパーの芯をコースに貼ったり工夫をする姿も見られた。

子供が作った作品を紹介し合う遊び会議を設けることで、「自分もやってみたい」という意欲をもったり、友達の作品の良さに対する気付きや発見を共有したりする時間をもつようにした。また、子供たち一人一人がやってみたい、工夫してみようと思えるような遊びになるように1回目の地域探検を環境の構成の一つとして計画した。地域探検の場所は高台にある広い野原である魚見桜である。今までA児は園にある廃材の卵パックを切った物を容器に入れて楽器にしていた。魚見桜は秋の季節が感じられる自然や木々がいっぱい場所である。A児は探検で拾った椿の種を入れることで楽器に変化が生まれ、音の変化や違いを比べるようになった。また、廃材の置き方を工夫することで、いろいろな子供が廃材へ興味をもち、水性ペンを使った色水遊びを実験と称して楽しむ姿も見られるようになった。「空き箱に入れると水が漏れるからカップが良い」「色が見えやすい透明カップが適している」など失敗を重ねながら確かめたり試したりして楽しむ姿が見られ始めた。こんなふうにやってみたいと思っても、一つの方法で同じ結果しか出せないような製作活動では自発的な活動としての遊びにはなっていないことに気付いた。子供が「自分から動き出したい」「もっと作りたい」「続けていきたい」と思えるような遊びになって

いるかという視点で見直し、「10の姿」を念頭に置いて子供を見ていくことが、保育の評価につながり環境の再構成をすることに結び付いていった。

このように「10の姿」を念頭に子供の姿を見ていきながら、幼児にふさわしい生活の中で必要な体験ができるように環境の構成を行い、子供が環境とどのような出会いをするかをより具体的に想定し、それらを生活の中にどのように組み込んでいけばよいかを計画的に位置付けていくようにしていった。

5 指導計画の評価と改善

(日常の保育の反省と評価を積み重ね、Ⅲ期としての反省と評価を「10の姿」を踏まえてまとめていく)

「10の姿」を踏まえた保育実践の記録を基に検証し、子供の内面理解に努め、その中から課題を見出し、よりよい保育実践となるよう改善を繰り返しながら日案を作成してきた。評価においては、「子供の自発的な遊びを大事にし、主体性が生かされた遊びになっていたか」「『10の姿』が育ってきているのか」「子供が興味のもてる環境構成がなされていたのか」「教師の援助は十分だったのか」等をポイントとして見直しを行った。また、担任の捉え方が一方的にならないよう、職員間での話し合いを常にもつようにし、日常の保育の反省や評価を基に週案(週末)、月案(月末)の評価を行い、改善してきた。

日常的に「10の姿」を保育の評価の視点としてもちながら、幼児の興味・関心は日々変わっていく。必ずしも教育課程通りにいくわけではない。その日のねらいや「10の姿」をいつも意識しながら、機を捉えて、柔軟に対応していくことを心掛けてきた。

日常の保育の中で、「この姿は『10の姿』ではないだろうか。ここからつながっていくのではないだろうか」という場面に出会うと、子供の興味に即した援助や環境の構成を工夫できるよう心掛けた。

また、長期指導計画では、反省を基に、その月に子供から自発的に出た遊びを青い文字で追加し、翌月に加えたいねらい及び内容等を朱書きで示すようにした。

これらの評価を積み重ね、教育課程に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の欄を付け加え、Ⅲ期に育ったと思われる「10の姿」を記入することにした。

6 教育課程の改善

(5 を踏まえて、教育課程のⅣ期のねらいと内容を改善する)

1～5の評価・改善を繰り返し、教育課程のⅢ期(9月～12月)が終わった時点で、ねらい及び内容が子供たちの実態と合っていたかを再確認し、どのように改善していくかを職員間で検討した。子供たちの育ちをもとに振り返りを行い、できたことや難しかったこと、もっと深めていくべきことを捉え、課題を見出し修正してこととした。さらに、Ⅲ期においての子供の育ちを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の視点で捉え直し、この期に育ったと思われる姿を、別枠に記入していくことで明確に位置付けた。「幼児期の

終わりまでに育てほしい姿」で捉え直した子供の姿を盛り込んでいくために、ねらい及び内容と、次年度に向けた教育課程に追加記入した「10の姿」を相互に関連させながら見直し、足りない部分を補いながら編成を進めた。

Ⅲ期の編成を終えた際、子供の育ちとして足りないのではないかと反省した項目については、Ⅳ期の教育課程に取り入れることとした。Ⅳ期においてもⅢ期と同様に「幼児期の終わりまでに育てほしい姿」を意識し、子供の育ちとつながっているか定期的に反省・評価・改善し、よりよい教育課程になるよう取組を進めている。

Ⅲ 研究の成果と課題

- 1 子供理解と環境の構成、保育者の援助
- 2 社会に開かれた教育課程
- 3 まとめ（提言）と今後の課題

「Ⅲ 研究の成果と課題」では、幼稚園・認定こども園・保育所に勤務する幼稚園教諭・保育士・保育教諭を総称して、「保育者」の表記を用います。

Ⅲ 研究の成果と課題

1 子供理解と環境構成、保育者の援助

(1) 「10の姿」を子供理解と評価に活かす

教育課程を見直していくために、日々の保育の観察記録により捉えた子供の姿から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を考察していった。これまでも、日頃の保育の中で担任が気付いたことをメモしていたが、「10の姿」の視点をもって観察することで、子供の育ちをより深く見取っていかうとする意識を保育者が強くもつことができるようになった。「10の姿」を例に挙げながら保育者同士の話し合いができるので、子供の姿を振り返りながら「この項目につながるのではないか」「ここが足りないのではないか」と保育の反省や評価が共有化しやすくなった。「10の姿」は、子供たちがどんなふうにいるのかということを保育者がはっきりと捉えるための手がかりとなるものであることが実感できた。

(2) 複数の保育者で多面的に子供をとらえる

子供の育ちを「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点に見取っていくと、一つの項目のみに収まらない保育者の捉えが現れる。同じ活動や事例であってもそれぞれの項目で子供の育ちを考えることで、複数の保育者で一人の子供を多面的に見ることができるということが確認できた。「10の姿」それぞれに子供の姿を振り分けることが目的ではないのは言うまでもないが、子供の育ちが「協同性」につながるのか、「思考力の芽生え」につながる姿なのではないか等、焦点の当て方により、様々な視点で話し合うことで、子供のよさや変容を見取っていくことができた。

(3) 「10の姿」で見通しをもった指導計画を立てる

指導計画を立てる際は、週案等の短期の指導計画では予想する子供の姿を描き、環境の構成、保育者の援助を行い、子供の興味・関心や行動に合わせて、さらに次の計画を立てたり指導計画を修正したりしている。具体的には、週案に基づいて指導を行い、週の半ば水曜日に実際の子供の姿に合わせた環境の構成や保育者の援助について話し合い、指導計画を見直し改善するというPDCAサイクルを回している。それに加え、子供の実態から個別の援助を考える際に、育ってほしい姿を描きながら指導計画の修正をするように意識するようになった。このように「10の姿」を自園の子供の姿と重ねて保育者間で共有することで、先を見通しながら指導計画を作成することにつながった。

(4) 育ちの姿を具体的に想定し指導計画に位置付ける

「10の姿」を視点に子供の姿を見ていくと、それぞれの時期にふさわしい生活の

中で必要な体験ができるように環境の構成を指導計画に位置付けることが肝要となってくる。

豊岡幼稚園では、育ちの姿から指導計画を見直した時、子供が考えたり、工夫したり、試したりする場面の設定が必要になり、環境の構成を見直し、新しい活動を取り入れることにした。また、指導計画に位置付けられている行事であっても子供の育ちの姿からどこに重点をおいて環境の構成や援助をしていくかということを見直していった。

「時期や季節に合わせた活動だから」「毎年園が行っている行事だから」という理由で指導計画を作成し実施するのではなく、幼児が育っていくために必要な体験ができる環境の構成ができているかという視点で指導計画を見直していくことができたことが意義深いと考える。

(5) 環境の構成や教師の援助を意図的に仕組む

自然への気付きや物の仕組みに対する捉え方などは、天候や身の回りの事象による環境の構成が必要である。「10の姿」で育ちの姿を明確にもてたことで、この時期の子供の発達にこの体験が必要だ、経験させたいという願いを教師が今まで以上に強く意識するようになった。子供の状況に合わせた柔軟な対応や環境の構成、子供の興味・関心に合わせたタイミングのよい援助が子供の育ちに欠かせないことが再認識できた。

(6) 「10の姿」を視点に一人一人の姿を捉える

「10の姿」を視点に、園の子供の姿で具体的に育ちの姿を共有化していったが、幼児一人一人に応じて、経験の違いや思いを把握しながら、それぞれの「10の姿」を捉えていく必要性を感じた。

例えば言葉によるコミュニケーション等で考えると、自分の思いが言えるように小さい集団から思いを伝えるようにする環境の構成や、どんな言葉がいいのか見守りながら適切に声かけをする援助を想定するためには、「10の姿」を特定の姿のみで捉えるのではなく、一人一人の発達の状況を個別に継続的に捉えていくことが大切である。

2 社会に開かれた教育課程

(1) 地域の人材、地域の資源を効果的に活用する

教育内容、教育活動をよいものにしていくために地域にいるいろいろな力をもっている人や、地域の資源である自然体験のできる公園や広場等の環境を活用していくことが大切である。

豊岡幼稚園では指導計画を見直す中で、自然体験の少なさから地域の自然に思い切り親しむ体験ができるように自然探検を計画に取り入れることにした。その中で、生き物に対する興味・関心が高い子供たちにより豊かな体験や話ができる地域の方の存在が必要であると感じた。そこで園長に相談し、小学校のスクールアシスタント（S

A) である樹木医を紹介してもらい依頼することとした。SAは魚見桜を案内すると同時に園の子供たちのためにコスモスの迷路を設定してくれ、子供たちは迷路や虫取りを体験することができた。また、道の花や草木に詳しく、一つ一つ丁寧に説明をしてくれた。

このように専門性の高い人材の活用は子供に必要な経験をより充実したものにしていった。豊岡幼稚園では地域の人材や地域の環境・施設等の活用の視点を持ち、効果的に組み合わせていくことで、カリキュラム・マネジメントを通し、教育の質を上げていく大切さが再認識できた。

(2) 教育課程における工夫

園には教育課程や年間指導計画、月案、週日案等があり、カリキュラム・マネジメントのために幼児の記録等の文書も多くある。それらの資料は、詳しい内容が把握できる反面、それぞれの位置付けや関係が見えにくくなっている場合がある。また、園の教育目標や環境を通して行う教育の仕組みがなかなか伝わりにくいところがある。

教育課程等を園の中に閉じているのではなく、園ではどのような資質・能力を育てるのか、そのためにどのような活動を設定していくのかといったことを、保護者、地域の人と共通理解をして教育をしていくことが必要であると考えた。

そこで、今回改訂を踏まえて教育課程の見直しを図ったことを契機に、園の教育目標や教育課程の位置付けや意味を園内の教職員で共通理解するために、その概要を1枚のシートにまとめた。また、保護者や地域の方にも教育課程を分かりやすく伝えることができるように、期ごとに印象的な写真を添えて具体的な子供の姿がイメージできる教育課程を作成した。子供の姿を可視化するように教育課程を工夫することで、教育課程を編成して終わるのではなく、カリキュラム・マネジメントにも使いながら、今後も教育課程を改善したり、指導計画を作成したりしていくことが期待できる。

3 まとめ（提言）と今後の課題

本研究では、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた教育課程の編成や指導計画の在り方について研究推進園の園内研修を中心に模索してきた。

「10の姿」を踏まえた教育課程編成のプロセスの中で豊岡幼稚園の研究実践から言えそうな成果については前述した。これらの成果は、教育課程の改善のプロセスや視点が明らかになったことを示すものであるが、幼稚園教育はもとより幼児教育がこれまでも大切にしてきたことを、「10の姿」を視点にもつことで改めて強く認識できたと感じられる点も多い。これらのことは研究推進園の成果のみにとどめず、幼稚園教育要領等の改訂の時期をターニングポイントとし、さらに県内でも改善を図っていきたいことである。

ここで、豊岡幼稚園の研究の成果と課題から、どのようなポイントに留意しながら「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を捉えていけばよいか、提言としてまとめたい。

(1) 主体的な遊びの中で発達していく幼児の姿を「10の姿」を念頭に捉える

豊岡幼稚園では園内研修において教育課程の在り方を見直す中で、修正前の教育課程はその時期の主な行事や活動を中心に構成されていたことに気付いた。そのため、園の行事や活動から環境構成のポイントが示され、主体的な遊びの中での具体的な子供の姿が見えにくいものになっていた。「10の姿」を視点に捉える子供の姿は幼児の自発的な活動である遊びの中で見ていくものであるということを踏まえて子供を捉えていくことが大前提である。

(2) 発達に必要な体験ができるように環境の構成を行う

「10の姿」を念頭に幼児が育っていく方向を意識して発達に必要な体験が得られるような状況をつくっていくことを考慮することが求められる。「10の姿」を個別に取り出して教育の方向性を決めたり、大人の教育的価値で示すような活動になったりすることのないように留意する必要がある。例えば、一つの材料で同じ方法で同じ結果しか出せないような製作活動では自発的な活動としての遊びに展開していかない。幼児の生活や発想を大切に、十分に活動ができる環境の構成を行うことが重要である。

(3) 予想と異なる幼児の姿に対する教師の柔軟な対応を大切にする

「10の姿」は到達目標ではない。例えば「思考力の芽生え」の姿につながっていく前提として、「この時期の子供の姿を見ていると自分なりに考えて判断しようとしている。いろいろな子にそうなってほしい」という願いを教師はもっているので、判断したり思考したりする場面が生まれるように、指導計画に位置付けていくことを留意しながら実践を進めてきた。研究を進める中で、「10の姿」を意識しすぎて、普段の保育に戸惑ってしまったという悩みもあった。

保育者が、子供に「自ら考えるようになってほしい」と願うあまりに、これまでに自然と行ってきた援助を躊躇したり、反対に「気付いてほしい」と願うあまりに、保育者主導の指導方法になってしまったりすると、予想と異なる子供の姿は保育者の目に入らなくなってしまう。

子供が自然と考えたり、気付いたりするための環境の構成を行うことはもちろんだが、子供の姿にいつでも対応できるように、子供にゆだねるところと、子供にゆだねた結果、どのような姿が見えてくるのかということ捉えて、教師の関わりを見直していくことを再認識して必要な援助を考えていくことが重要である。

(4) 「10の姿」を念頭においたカリキュラム・マネジメントを行う

これまでは5つの領域を頭に入れて、目の前の子供たちに今は何を重点的にすればよいか、週案等のねらいや内容を具体的に考えていたが、今後は「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭に置いて小学校における学びにつながっていくようにねらいや内容を組織していくことが求められる。豊岡幼稚園では「10の姿」を教育課

程、指導計画にどのように入れ込むのか、自園の子供の姿で描くとともに、どのようなねらいや内容を設定すればよいのか、県が派遣した幼児教育スーパーバイザーの助言を受けながら、少しずつ園内研修で理解が深まってきた。

今年度は「10の姿」とのつながりを考慮しながら教育課程を編成していったが、10項目を全て意識して教育課程を編成するとねらいが焦点化できず、実際に指導計画を作成し保育を展開することが困難な場合も生じてくる。「10の姿」を意識して子供の育ちの姿を捉えながら、実情に即したねらいや内容を見直し、指導の重点を明確にする必要がある。今後も「10の姿」を念頭に置き、子供の理解を深め、子供の実態や課題等を踏まえ、改善を続けていく必要がある。

(5) 幼小で「10の姿」を共有化する

豊岡幼稚園は校区の小学校である豊岡小学校の近隣に位置し、これまでも児童との交流、教職員の連携が行われている。モデル地域である日出町では、「幼保小連携協議会」を実施し、幼稚園・保育所・認定こども園等、全ての幼児教育施設と小学校の教諭等が保育参観や研修等を行っている。

今後は教育課程の円滑な接続に向けて、幼児教育施設、小学校の教諭等が互いの教育について、相互理解を深めていくことが肝要である。小学校学習指導要領総則にも、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫する」ことが示された。「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校の教諭等と共有するためには、自園の子供の具体的な育ちの姿を伝えていく必要がある。これまでも園は遊びの意味を捉え、環境を通して行う教育を子供の側に立って考えてきたが、幼児教育の重要性を小学校に伝えていくことで、幼児教育で培った力を生かしてもらえるように働きかけることが必要である。これから子供の姿を語る力が求められていく。それは管理職や主任だけのことでなく、担任一人一人が幼児教育の理念を理解しながら、実践を通して幼児期の教育の重要性を発信していくことが大切である。

参考資料

教育課程

指導計画

指導案

実践記録

幼児の生活と遊びの姿から「10の姿」を捉える

本資料は、平成29年度に豊岡幼稚園で作成し活用してきたものです。
今後、子供の実態等に応じて内容等の見直しを図りながら、改善していく
予定です。

教育課程 日出町立豊岡幼稚園

期 月	I 期 4月～5月中旬	II 期 5月下旬～7月	III 期 9月～12月	IV 期 1月～3月
ね ら い	<ul style="list-style-type: none"> ・園生活に慣れ、安定した気持ちで過ごす。健 (1) ☆安全な登降園の仕方や安全な生活に必要な態度を知る。健 (3) ・友達に好奇心をもちながら、自分の好き遊びを見つけて遊ぶ。人 (1) ・園生活に必要な約束を知り、守ろうとする。人 (3) ☆身近な自然や生き物に触れ親しみや興味をもつ。環 (1) ☆先生や友達に返事や挨拶をしたり、生活に必要な言葉が分かっていたりすることになる。言 (1) ☆園庭に咲く草花の美しさを楽しむ。表 (1) ☆先生や友達と一緒に歌や簡単なリズムを楽しむ。表 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身に付ける。健 (3) ・気のあつた友達と一緒に考えを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。人 (1) 言 (1) ・小学生と親しみ、一緒に活動する楽しさを味わう。人 (2) ・身近な物や自然物などに進んでかわりながら遊ぶ。環 (2) ☆自分の気持ちや言葉で表現する楽しさを味わう。言 (1) ・試したり、工夫したりしながら、いろいろな活動に取り組む。表 (3) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆自分の力十分を発揮しながら、いろいろな活動に進んで取り組む達成感を味わう。健 (2) ・友達と考えを出し合いながら意欲的に遊びを進めていく中で友達の良さに気づく。人 (1) ・友達の話をや言葉で聞いたり話したりしながら、伝え合う喜びを味わう。言 (2) ・グループの友達と共通のめあてに向かって協力したり工夫したりしながら遊ぶ楽しさを味わう。人 (2) ☆身近な自然や事象を見たり触れたりして考えた感動したりする。環 (1) 言 (1) ☆感じた事、考えた事を友達と工夫しながら様々な方法で表現する。表 (2) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆生活や遊びに見通しをもち、友達と一緒に意欲的に進める。健 (3) ☆就学への期待や成長の喜びをもち、園生活を楽しく中で、友達とのつながりを深める。人 (2) ☆身近な生活に必要な事象や自然現象に興味をもち、興味をもつてかわりながら、考えたりして生活を広げていく。環 (2) 言 (3) ☆場に順じた話し方を考え、人の話をきちんと聞く姿勢を身に付ける。人 (3) 言 (3) ☆友達といろいろな活動に楽しんで取り組むながら、自分の感じた事を言葉や身体豊かに表現し合い、互いの良さを認め合う。表 (2) 言 (3)
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園で遊ぶことに楽しさを感じ、喜んで登園する。健 (1) ・興味のある遊び場を見つけて、先生や友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。健 (2) ☆先生や友達と食べる事を楽しみ、食べ物への興味や関心をもち。健 (5) ・持ち物の置き場を知り、自分で始末したり遊んだ後の片付けをしたりする。健 (6) ・登降園の道順や危険な場所を知り、安全な行き帰りの仕方が分かる。健 (10) ☆危険な場所や危険な遊び方、災害時の行動についての適切な行動を知る。健 (10) ・友達と楽しく生活の中で、さまじりの大切さに気付く。人 (1) ・草花や虫などに触れ、春の自然の美しさや不思議さに気付く。環 (1) ・飼育動物や栽培物に親しみをもつて接し美しさや不思議さに気付く。環 (5) ☆クラスや個人、グループ等のマークに気づく。環 (10) ☆先生の言葉や話、絵本などに興味をもち、親しみをもつて聞こうとする。言 (1) ☆先生や友達に親しみをもつて返事や挨拶をする。言 (5) ☆先生や友達と一緒に歌を歌ったり、体を動かしたりする事を楽しむ。表 (6) 人 (1) ★かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり飾ったりする。表 (7) 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と一緒に戸外で遊ぶ楽しさや体を動かす心地よさを味わう。健 (2) 言 (3) ・様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。健 (4) ☆水の心地よさを感じながら、いろいろな水遊びを楽しむ。健 (4) ☆生活に必要な身の回りの活動を自分でする。健 (7) 人 (2) 言 (3) ☆自分の体に好奇心をもち、適切な体意の取り方に気付くと共に、手洗いやうがい、汗の始末、衣服の調節等を自分でする。健 (9) ・自分の思いや考えを友達に伝え、友達の思いや考えを受け止めてみる。環 (6) 言 (4) ★良いことや悪いことがあることに気づく。人 (9) ☆友達と協力し合い、簡単なルールを守りながら遊ぶ。人 (11) ・高齢者や小学生と触れ合って、親しみや思いやりの気持ちをもつようになる。人 (13) ★身近な自然に接する中で、季節の変化に気付く。環 (3) ・栽培物の生長に関心をもち、収穫への期待や喜びを味わったりする。環 (5) ・身近な動物と遊んだり世話をしたりして親しみ生命の大切さに気付く。環 (5) ☆生活の中で数値に関心をもち、表現し伝えようとする。言 (2) 言 (3) ☆絵本や物語などに親しみ、言葉の楽しさや美しさに気付く。想像する楽しさを味わう。言 (7) 言 (8) 言 (9) ☆生活の中で、様々な形、音、色などに気づいたり感じたりする。表 (1) ☆生活の中で、美しい物や心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。表 (2) ☆身近な素材等を使った活動の中で、そのもの特徴や性質が分かって遊びを楽しむ。表 (5) 環 (2) ・自分のイメージしたものを、身近な遊具や素材を使って試したり、工夫したりして表現しようとする。表 (8) 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動が遊びに意欲を持って取り組む。体を動かす心地よさを味わう。環 (2) 言 (3) ・栽培物の収穫の喜びを知り、調理して食べる楽しさを味わう。健 (5) ☆健康な体作りに関心をもち生活のリズムを整えたり、好きな食べ物を減らしたりして健康な生活習慣を身に付ける。健 (6) ★自分たちで生活の場を整えながら見通しをもつて行動する。健 (8) ★自分の健康に関心をもち、病気や感染症の予防などに必要な活動を進んで行う。健 (9) ☆災害時の行動が分かり、先生や友達と一緒に機嫌に避難する。健 (10) ★好きな遊びを楽しむ。環 (7) 言 (4) ・友達と遊ぶ中で、互いのよさを認め合ったり、協力し合ったりする。人 (7) 言 (8) ・共通の目的に向かって取り組む。自分なりの力を出す事で喜びを感じる。人 (8) ★困っている友達に気づき思いやりの気持ちをもつ。人 (10) ☆自分たちで遊ぶの場を整え、身近に使うものを大切に丁度丁度に投げる。人 (10) 環 (7) ・高齢者や未就園児、地域の大人と接し、いたわりや思いやりの気持ちを持つ。人 (13) ☆自然に触れて生活し、大きさ、美しさ、不思議さに気付く。環 (1) ★生活の中で、様々な物の仕組みや性質を感じ取り、気付いたり予想したり工夫したりしながら多様なかわりを楽しむ。環 (2) ★季節により自然や生活に変化があることに気付く。環 (3) ・秋の自然に関心をもち、工夫して遊びに取り、入れた秋を感じながら遊んだりする。環 (4) ・身近な動物に触れ、いたわりや尊敬の念をもつ。環 (5) ☆数量や文字、時間などに興味をもち生活の中に取り入れて遊ぶ。環 (6) 言 (9) ★身近な遊具に興味をもつてかわり、自分なりに比べたり、関連付けたりする。環 (8) ★日常生活に必要な簡単な数字、文字、図形などに関心をもち☆行事を通して園に親しむ。環 (7) ★相手の話を注意して聞いたり相手に分かるように話したり言葉で伝えようとする。言 (4) ★様々な出来事を通して、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。表 (3) ★感じた事や考えた事を自ら表現する喜びを味わう。表 (4) 	<ul style="list-style-type: none"> ☆食事の大切さを知り、進んで食べる気持ちをもち、マナーを守って楽しく食べる。健 (5) ☆就学への期待や喜びを感じ、進んで遊びやいろいろな活動に充実感を味わいながら見通しをもつて取り組む。健 (5) ☆自分なりのめあてをもつて繰り返し挑戦し、達成する喜びを味わう。人 (4) ★共通の目的に向かって、友達と一緒に協力し、最後までやりぬきようとする。人 (4) 言 (8) ★積極的にいろいろな友達とかわりながら喜びや悲しみを共感し合う。人 (5) ☆自分たちで遊び方を考えたルールを決めたりしてみんなで楽しむ。人 (8) ☆園生活の中で、やっつい事と悪い事を自分で考えて場面に応じて行動する。人 (9) ☆生活を共にしてきた友達や身近な人々への感謝の気持ちをもつ。人 (10) ・冬の自然現象に関心をもち、環の入れ替わりで遊んだり不思議さや変化に気付いたりする。環 (4) ★自分なりに比べたり、関連付けたりしながら、考えたり、試したり、工夫したりして遊ぶ楽しさを味わう。環 (8) ・日常生活に必要な簡単な数字、文字、図形などに関心をもち、考えたり遊びや生活に取り入れて使ったりする。環 (10) ★日本の伝統文化に親しみ、数量や文字、時間等に興味をもち生活の中に取り入れて遊ぶ。環 (6) 言 (9) 言 (12) ★日常生活や遊びの中で、文字で伝える楽しさを味わう。言 (10) ☆考えた事や感じた事を分けるように話したり相手の話を注意して聞いたりしながら、言葉で伝え合う事を楽しむ。言 (4) 言 (4) ・トラブルや疑問、困った事を自分たちで解決していくこととする。人 (9) 言 (10) ・感じた事や考えた事を友だちと一緒に言葉や動き等で工夫して表現し、演じて遊ぶ楽しさを味わう。表 (4) ・材料や用具を目的に合わせて選び、のびのびと表現しようとする。表 (8) ★友達と協力して取り組む。環 (10) 言 (7) ★友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見出し、工夫したり協力したりする。人 (8)

期	I 期	II 期	III 期	IV 期
月	4月～5月中旬	5月下旬～7月	9月～12月	1月～3月
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 園生活に慣れ、安定した気持ちで過ごす。健康 安全な登降園の仕方や安全な生活に必要な態度を知 友達に関心をもちながら、自分の好きな遊びを見つけて遊ぶ。人 園生活に必要な約束を知り、守ろうとする。人 身近な自然や生き物に触れ親しみや興味をもつ。環境 先生や友達に返事や挨拶をしたり、生活に必要な言葉が分かるとりするようになる。言葉 先生や友達と一緒に歌や簡単なリズムを楽しむ。表 	<ul style="list-style-type: none"> 健康、安全な生活に必要な習慣や態度を身につける。健康 身のあつた友達と互いに考えを出し合いながら遊ぶ楽しさを味わう。人、言葉 小学生と親しみ、一緒に活動する楽しさを味わう。人 身近な物や自然物などに進んでかかわりながら遊ぶ。環境 自分の気持ちを言葉で表現する楽しさを味わう。言葉 試したり、工夫したりしながら、いろいろな活動に取り組む。表 	<ul style="list-style-type: none"> 生活に見通しをもち、必要な事に気が付いて取り組む。健康 自分の力を十分に発揮しながら、いろいろな活動に楽しんで取り組む達成感を味わう。健康 友達と考えを出し合いながら意欲的に遊びを進めていく中で友達の良さに気づく。人、言葉 グループの友達と共通のめあてに向かって協力したり工夫したりしながら遊ぶ楽しさを味わう。人 身近な自然や事象を見たり触れたりして考えたり感動したりする。環境 感じた事、考えた事を友達と工夫しながら様々な方法で表現する。表 	<ul style="list-style-type: none"> 生活や遊びに見通しをもち、友達と一緒に意欲的に進める。健康 就学への期待や成長の喜びをもち、園生活を楽しむ中で、友達とのつながりを深める。人 身近な生活に必要な事象や自然現象に関心をもち、興味をもってかかわったり、考えたりして生活を広げていく。環境 場に合った話し方を考え、人の話をきちんと聞く姿勢を身につける。言葉 友達といろいろな活動に楽しんで取り組むながら、自分の感じた事を豊かに表現し合い、互いの良さを認め合う。表 食事の大切さを知り、マナーを守って楽しく食べる。健康 園生活の中で、やっている事と悪い事を自分で考えて場面に応じた行動をする。人 考えた事や感じた事を分かるように話したり相手の話を注意して聞いたりする。言葉
個別の知識や技能の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 興味のある遊び場を見つけ、先生や友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。健康 登降園の道順や危険な場所を知り、安全な行き帰りの仕方わかる。健康 危険な場所や危険な遊び方、災害時の行動について適切な行動を知る。健康 持ち物の置き場所を知り、自分で始末したり遊んだ後の片付けをしたりする。健康 先生や友達と食べる事を楽しみ、食への興味や関心をもつ。健康 友達と楽しく生活する中で、きまりの大切さに気付く。人 草花や虫などに触れ、香の自然の美しさや不思議さに気付く。環境 飼育動物や栽培物に親しみをもちて接し美しさや不思議さに気付く。環境 先生や友達に親しみをもちて返事や挨拶をする。言葉 先生や友達と一緒に歌を歌ったり、体を動かしたりすることを楽しむ。表 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と一緒に戸外で遊ぶ楽しさや体を動かす心地よさを味わう。健康 友達と誘い合い、簡単なルールを守りながら遊ぶ。健康 水の心地よさを感じながら、いろいろな水遊びを楽しむ。健康 生活に必要な身の回りの活動を自分でする。健康 自分の体に関心をもち、適切な休息の取り方に気付くと共に、手洗いやうがい、汗の始末、衣服の調節等を進んでする。健康 栽培物の生長に関心をもち、収穫への期待や喜びを味わったりする。環境 身近な小動物と遊んだり世話をしたりして親しみ先生の大切さに気付く。環境 	<ul style="list-style-type: none"> 秋の自然に関心をもち、工夫して遊びに取り入れたり秋を感じながら遊んだりする。環境 生活の中で、数量や文字、時間などに興味をもち生活の中に取り入れて遊ぶ。環境 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちで遊び方を考えたりルールを決めたりしてみんな楽しむ。人 日常生活に必要な簡単な数字、文字、図形などに関心をもち、考えたり遊びや生活に取り入れて使ったりする。環境 冬の自然現象に関心をもち、取り入れて遊んだり不思議さや変化に気付いたりする。環境 材料や用具を目的に合わせて選び、のびのびと表現しようとする。表
内容	<ul style="list-style-type: none"> 先生の言葉や話、絵本などに興味をもち、親しみをもちて聞くこととする。言葉 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや要求を言葉で表現し伝えようとする。言葉 自分のイメージしたものを、身近な遊具や素材を使って試したり、工夫したりして表現しようとする。表 身近な素材等を使った活動の中で、そのものの特徴や性質が分かかって遊びを楽しむ。表 	<ul style="list-style-type: none"> 共通の目的に向かって取り組み、自分なりの力を出す事で喜びを感じる。人 高齢者や未就園児と接し、いたわりや思いやりの気持ちを持つ。人 友達と遊ぶ中で、互いのよさを認め合ったり、協力し合ったりする。人 感じた事や考えた事を友達と一緒に言葉や動き等で工夫して表現し、演じて遊ぶ楽しさを味わう。表、言葉 	<ul style="list-style-type: none"> 就学への期待や喜びを感じ、進んで遊びやいろいろな活動に取り組む。健康 自分なりのめあてをもちて繰り返す挑戦し、達成する喜びを味わう。人 生活を共にしてきた友達や身近な人々への感謝の気持ちをもち、人 トラブルや疑問、困った事を自分たちで解決していくこととする。
	思考力、判断力、基礎力、表現	学ばせたい人間性、学力、		

11 月 指 導 計 画

<p>○ 友達同士で互いに考えを出し合い、遊びを進めていこうとする姿が見られる。</p> <p>○ 「～しよう」もっと～したい」と、めあてをはっきりもって友達との遊びを進めている。</p> <p>○ 園内運動会で力いっぱい取り組んだ満足感や、その姿を認められた喜びが自信となり、挑戦意欲がさらに高まっている。</p> <p>○ 友達の刺激を受けて、苦手な遊びにも挑戦するようになり、頑張ろうとする姿が見られる。</p> <p>○ 今までの経験遊びに取り入れられたり、前にはうまくなかったところを自分たちなりに考え直したり工夫したりしようとしている。</p> <p>○ 秋の自然に興味をもってかか関わり、遊びに取り入れようとする。</p>	<p>ねらい</p> <p>○ グループの友達と遊ぶ中で、互いのイメージを出したり、受け入れたりしながら、遊びを進めていく楽しさを味わう。</p> <p>○ 自分なりの目的をもって遊ぶ中で、試したり工夫したりして取り組み、実現させていく喜びを味わう。</p> <p>○ 秋の自然に触れ、その変化や美しさを感じ、自然物を取り入れ遊びを楽しむ。</p> <p>○ 自分の体や健康について、興味・関心をもつ。</p> <p>○ 体験したり、感じたことを言葉で表現したりすることを楽しむ。</p> <p>○ 自分の考えや思いを言葉で相手に伝えたり、友達の考えを受け止めたりして遊びを進める。</p> <p>○ 友達と遊ぶ中で、互いのよさや力を認め合ったり、協力し合ったりする。</p> <p>○ 目的やイメージしたことを試したり、工夫したりして取り組み最後までやり遂げようとする。</p> <p>○ 秋の自然に興味をもち、収穫したり、飾ったり、見立てたり、料理をしたりして遊びを楽しむ。</p> <p>○ 友達とのやりとりを十分にし、思いを伝え合う。</p>
<p>週</p> <p>予想される姿や遊び</p> <p>○ 友達と共通のイメージをもって取り組む。 ・劇ごっこ ・人形劇 ・おうちごっこ ・鬼ごっこ ・シヨゴっこ</p> <p>○ 友達と力を合わせて、遊びに必要な物を工夫して作る。</p> <p>○ 秋の自然に親しむ。 ・地域探検 ・木の葉や木の実を集めて遊ぶ。 ・チューリップの球根を植える。 ・芋ほり ・収穫祭</p> <p>○ のびのびとした表現遊びを楽しむ。 ・歌や楽器遊び ・話作り ・遊びに必要なものをつくる</p> <p>○ 音楽集会に参加する。</p> <p>○ 電車・買い物体験をする。</p>	<p>環境構成と教師の援助</p> <p>□自分なりの力が発揮でき、好きな遊びが充分できるように環境を整えておく。</p> <p>□くり返し遊んだり、遊びを發展させていったりできるように場や時間を確保する。継続して行いたい時には場を整理しておくようにする。</p> <p>□友達と力を合わせ、いろいろな遊びのできる遊具や素材を用意しておく。要求に応じて、一緒に必要なものを準備する。</p> <p>□園庭あそびや園外散歩で、木の葉が色付いていることや、雲の様子の変化などに気づいた時には、共感したり、友達に伝える場を設けたりする。</p> <p>★友達と考えを出し合って必要な物を作ったり力を合わせて遊んだりしている姿を認める。生活の中で、物の大切さや片付けの必要性を一緒に考えていく。</p> <p>★自分のめあてに向かって何度か挑戦する姿を認め、できないことを克服しようとする気持ちを育てると同時に、できるようになった満足感を味わえるようにする。</p> <p>★遊びのイメージの違いから起こるトラブルは、状況に応じて対応していく。それぞれの思いを伝えたり、相手の考えを聞いて受け入れる大切さを知らせたり、みんなが問題を共通に意識できるようにする。</p> <p>★身近な秋の自然に触れたり、遊びに取り入れられたりして遊ぶ姿を見守る。分類したり、色や形、数量に興味をもったりできるようにする。</p> <p>★お芋を掘ったり、調理して食べたりして収穫の喜びを味わえるようにする。</p> <p>★体の仕組みや、冬にはやる感染症の予防について知ることができるよう、絵本を読んだりしながらわかりやすく伝えていく。</p>
<p>基本的な生活習慣</p> <p>○ 外から入ったたらうがいをする</p> <p>○ 集団の歩き方</p> <p>○ 危険な事をして遊ばない</p> <p>○ 厚着をしない</p> <p>○ 友達の発表を聞く</p> <p>○ 姿勢</p> <p>○ 咳をする時は口に手をあてる</p> <p>行事</p> <p>○ いもほり</p> <p>○ 収穫祭</p> <p>○ 音楽集会</p> <p>○ 絵本の貸出し</p> <p>○ 絵本の読み聞かせ会</p> <p>○ 誕生会・身体測定</p> <p>行</p>	<p>家庭連絡</p> <p>○ 11月園だより</p> <p>○ クラスだより</p> <p>○ いもほり・収穫祭</p> <p>○ 給食献立表</p> <p>○ 電車・買い物体験について</p> <p>人権教育の視点</p> <p>○ 仲良く遊んだり仕事をしたりする。</p> <p>○ 働く人々に感謝の気持ちをもつ。</p> <p>○ 協力して遊びを進める。</p> <p>○ 自分なりに試したり、工夫したりする。</p> <p>食育の視点</p> <p>○ 食事の準備から片付けをするなかで、自分たちでできることを増やす。</p>

前週の子供の姿

○秋の自然物のドングリを遊びに取り入れる様子が見られている。ドングリゴマを作って友だちと競い合ったり、ドングリに顔を書いて飾ったりしながら楽しんでいる。大きなベニヤ板を準備すると、最初はドングリを転がす事に興味を示していた子ども達も、廃材を張り付けたり剥がしたり試行錯誤しながら、ドングリ迷路が出来上がってきた。点数を付けたり、転がし方を工夫したりする姿も見られるようになった。

○ホールでは友だちと一緒に踊ったり、歌ったりする姿が見られている。衣装作りも友だちとイメージをすり合わせながら、「こうした方が可愛いよ。」「本当だ。私もしてみよう。」等、友だちの考えを受け入れたり、自分の思いを伝えたりしながら作る姿が見られている。

○リレーごっこでは、話し合いの中で決まったルール『自分たちのルール』と意識して、守りながら遊ぶ姿が見られるようになった。先生係や審判などそれぞれ役割も出来てきて、競い合う事を楽しんでいるようだ。

予想される活動

○鬼ごっこ（バナナ鬼） ○秋の自然物で遊ぶ ○ショーごっこ
○リレーごっこ （ドングリ迷路・ドングリゴマ）
○砂場遊び ○チャレンジカード
○廃材遊び （フラフープ・スイングスリップ・固定遊具等） 等

今週の歌♪

まっかな秋
やきいもぐーちーばー
きのこ
まつぼっくり等

13日(月)	14日(火)	15日(水)	16日(木)	17日(金)
	・公開保育(9:30~11:30)			・英語で遊ぼう(8:50~)
＊ ショーごっこ (ホール) ・作った衣装や飾りを身につけて踊ったり、作った楽器を演奏したりする。 ・チケットを作ってお客さんを呼ぶ。		・ショーの時間を考えたり看板を作ったりする。		
＊ ドングリ迷路 (教室) ・ゲーム屋さんとして発展し、チケットを作る。	・お客さんを呼んでチケットを使ってゲームを楽しむ。	・ゲーム屋さんの看板や必要な物を作る。		
＊ 砂場遊び (園庭) ・どんぐりやまつぼっくりを使って工夫してケーキなどを作って楽しむ。	★13時降園	★15時降園		★絵本貸出 持：上靴・タオル・エプロン

週のねらい

- ◎自分なりの目的をもって工夫したり試したりしながら遊びに取り組み、思いを実現させていく喜びを味わう。
- ◎友達と一緒に遊び方やルールを考えながら遊びを進めていく事を楽しむ。
- ◎秋の自然物(どんぐり、まつぼっくり、落ち葉、種等)に積極的にかわり遊びに取り入れようとする。

内容

- 自分なりの目的に向かって挑戦し、何度も繰り返し取り組む楽しさや目的が達成される嬉しさを感じる。
- 友だちと競い合う楽しさや体を思い切り動かす心地よさを感じながら遊ぶ楽しさを味わう。
- 自分が気付いた事を伝えたり、友だちの意見を聞いたりしながら遊ぶ事を楽しむ。
- 秋の自然物(まつぼっくり、ドングリ、落ち葉等)や身の回りの素材を使い、遊びに必要な物を工夫して作ったり遊んだりする事を楽しむ。

環境構成と★教師の援助

- 自分なりの力が発揮でき、好きな遊びが十分できるような時間を確保し子供達と共に環境を整えておく。
- リレーごっこのチーム分けやルールについて話し合った事を、共通の思いとして認識し、活動が楽しめるようにする。
- 手洗いやうがいの大切さを再確認し、健康な体と病気の予防について意識を高めていく。□友達とじっくり相談したり、考えたりできるような場や時間を確保する。□イメージの合う仲間と遊びと一緒に楽しめる環境や空間、素材を子供と一緒に考えながら設定する。
- 共通のイメージがもてるよう、参考となる絵や写真、本などを見ることが出来るように用意しておく。
- 製作や遊びの為に必要な材料や道具を取りだしやすく、片付けがしやすいよう子どもと一緒に整理しておく。
- ドングリ穴あけ機等を安全に扱えるよう設定し自然物を使った遊びが十分に楽しめる環境を整える。
- ★遊びの様子を見守りながら必要に応じて「どんなルールになっているの？」等、ルールを意識しながら遊ぶ楽しさが味わえるような言葉かけをする。
- ★一緒に製作する中で、子どもの作りたいイメージを推察しながら見守ったり、必要に応じて適した道具や材料を提示したりする。
- ★ドングリに穴をあける等、危険が伴う作業では、安全を十分確保しながら個別に援助していく。
- ★友達と一緒に考えを出し合っている姿やそれぞれの発想や工夫している所などを十分認める。また、作った物などを大切にすることで、生活の中の物の大切さや片付けの必要性なども一緒に考えていく。
- ★遊びのイメージの違いから起こるトラブルは、状況に応じて対応していく。それぞれの思いを伝えたり、相手の思いを聞いて受け入れる大切さを知らせたり、みんなが問題を共通に意識できるようにする。

健康・食育・安全(基本的な生活習慣)

- ＊衣服の着脱、汗の始末(厚着をしない)
- ＊友達の発表を聞く ＊安全な遊び方
- ＊給食の準備、片付け、食事のマナー・姿勢
- ＊咳をする時は口に手を当てる。マスクをする。

預かり保育

- 夕方は気温が下がってくるので、衣服の調節をする。
- 日の入りが早くなってきたので4:30に室内へ入る。

家庭連絡

反省と評価(10の姿を捉えて)

- ◆リレーごっこでは、振り返りの中で自分たちが作ったルールを元に、人数を揃えたり先生係を作ったりしながら遊ぶ姿が見られている。ルールが守れずトラブルになる時は、話し合う時間を設けルールを確認し合う事で、友だち同士声をかけ合いながら折り合いを付ける姿が見られている。(④)
- ◆チャレンジする遊びでは、自分なりに目標をもち、何度も挑戦する姿が見られた。少し難しい事でも、自分なりに取り組んでみたり、友だちに助けをもらったりしながら取り組む姿も見られた。あまり興味を示さない子供に対する援助の必要性を感じている。(①・②・③)
- ◆ドングリ迷路では、友だちとイメージを共有しながら試行錯誤を繰り返して、遊びを作り上げる姿が見られ、出来上がった充実感や友達から認められる喜びを感じる事が出来たようだ。また、振り返りの場で、一生懸命作った事を発表し合うことにより、友達が作った物を大切に扱おうとする姿も見られてきた。数に関心がもてる援助や環境構成をしていく必要がある。(③・④・⑥)
- ◆ショーごっこでは、友達とイメージをすり合わせながら衣装を作り、自分なりの表現を楽しむ姿や、友だちに認められる心地よさを感じているようだ。遊びが発展できるように、共通の目的をもつ友達とじっくり話す機会を設け、ショーの内容や時間などを考えていく必要性を感じた。(③・⑥・⑨)
- ◆遊びの振り返りの場の設定は、自分もやってみようという刺激の場や、自分の思いを伝え、友達の話や聞く姿勢の育ちの場になっている。(③・⑨)

きりん組・うさぎ組保育指導案

1. 日 時 平成 29 年 11 月 14 日 (火) 9:30~11:30
2. 対 象 児 5 歳児 きりん組 (男児 13 名 女児 9 名 計 22 名)
うさぎ組 (男児 14 名 女児 7 名 計 21 名)
3. 活 動 名 『秋の自然物で遊ぼう』
4. 保育にあたって 後期に入り、運動会を経験した子供たちは、同じ目的に向かって取り組み、やり遂げた満足感や自分の役割に責任をもって取り組んだ達成感で一人一人が自信をもって生き生きと園生活を送る姿が見られている。遊びや生活を通して、クラスや学級の友達とのつながりや関わりが広がったり、深まったりしてきた。戸外遊びでは、体を動かす心地よさを感じながら、一人一人が自分なりの目標をもって取り組むチャレンジカードや自分たちでルールを作って遊ぶバナナ鬼ごっこ、運動会の経験をもとに役割を分担したり、ルールを守ったりしながら遊びリレーごっこなど集団で遊ぶ姿も多く見られるようになった。室内ではハロウィンの経験から、自分たちで衣装や楽器を作って踊りや歌を歌う表現遊びや、自分なりのイメージをもって工夫したり試したりしながら遊ぶ製作遊びも見られている。また、地域探検を繰り返して、自分の住む地域を知り、地域の方々と触れ合い、地域の良さを感じている。9月の探検では、虫取りやキバナコスモスの迷路等で五感を働かせながら自然と十分にかかわることが出来た。探検で捕まえた身近な生き物を飼ったり世話をする楽しさを味わったり生死に触れたりして生命の大切さに気付くことが出来た。探検や日々の生活の中で子供たちは、吹く風の涼しさや水の冷たさ、秋の空に浮かぶうろこ雲、どんぐりや落ち葉やまつぼっくり等に、秋の訪れを感じている。
- このような姿から、子供の興味、関心を考慮し、子供たちが主体的に取り組む遊びとして秋の自然物を取り入れた遊び、ルールを守ったり自分の気持ちと折り合いを付けたりしながら楽しむ遊び、試したり工夫したり予想したりしながら楽しむ遊び、友達と一緒に表現することを楽しむ遊びの場を設定した。
5. 本 時 案 別紙参照
6. 今後の遊びの展開 今後は、ゲーム屋さんや砂場のレストランなどをもっと発展させ、1年生や5年生をお客さんとして招待しながら、自分たちで作り上げた遊びの満足感を味わわせていきたい。また、この経験を表現遊びにつなげ、生活発表会という学級全体の取組にも生かしていきたい。

<p>時間</p>	<p>子供の活動</p>	<p>ねらい</p>	<p>内容</p>	<p>評価</p>
<p>平成29年11月14日(火)</p>	<p>日 案</p>	<p>◎友達と話し合い合って意欲的に遊びに取り組み、思いや考えを出し合いながら遊んだりする楽しさを味わう。(健・言・思・協・道)</p> <p>◎自分なりの目的をもって取組む、自分なりの力を出していく事に喜びや達成感を感じる。(健・自)</p> <p>◎友達と一緒に遊び方やルールを考えながら遊ぶ事を楽しむ。(協・道)</p> <p>◎友達に自分の思いや考えを言ったり、友達の考えを聞いたり受け入れたりして工夫しながら遊びを発展させる。(言・思・協)</p> <p>◎自分なりの目的をもって遊びに取り組み、数えたり挑戦したりする楽しさを味わう。(健・自・協・数)</p> <p>◎自分なりに試したり考えたり、友達と相談しながら改良や修理を繰り返す、ドングリ迷路などを作る楽しさを味わう。(協・言・思・道)</p> <p>◎友達と作った物を使って、一緒に踊ったり歌ったり、自分なりの表現をする事を楽しむ。(思・協・豊・道)</p>	<p>◎友達と話し合い合って意欲的に遊びに取り組み、思いや考えを出し合いながら遊んだりする楽しさを味わう。(健・言・思・協・道)</p> <p>◎自分なりの目的をもって取組む、自分なりの力を出していく事に喜びや達成感を感じる。(健・自)</p> <p>◎友達と一緒に遊び方やルールを考えながら遊ぶ事を楽しむ。(協・道)</p> <p>◎友達に自分の思いや考えを言ったり、友達の考えを聞いたり受け入れたりして工夫しながら遊びを発展させる。(言・思・協)</p> <p>◎自分なりの目的をもって遊びに取り組み、数えたり挑戦したりする楽しさを味わう。(健・自・協・数)</p> <p>◎自分なりに試したり考えたり、友達と相談しながら改良や修理を繰り返す、ドングリ迷路などを作る楽しさを味わう。(協・言・思・道)</p> <p>◎友達と作った物を使って、一緒に踊ったり歌ったり、自分なりの表現をする事を楽しむ。(思・協・豊・道)</p>	<p>◎友達と話し合い合って意欲的に遊びに取り組み、思いや考えを出し合いながら遊んだりする楽しさを味わう。(健・言・思・協・道)</p> <p>◎自分なりの目的をもって取組む、自分なりの力を出していく事に喜びや達成感を感じる。(健・自)</p> <p>◎友達と一緒に遊び方やルールを考えながら遊ぶ事を楽しむ。(協・道)</p> <p>◎友達に自分の思いや考えを言ったり、友達の考えを聞いたり受け入れたりして工夫しながら遊びを発展させる。(言・思・協)</p> <p>◎自分なりの目的をもって遊びに取り組み、数えたり挑戦したりする楽しさを味わう。(健・自・協・数)</p> <p>◎自分なりに試したり考えたり、友達と相談しながら改良や修理を繰り返す、ドングリ迷路などを作る楽しさを味わう。(協・言・思・道)</p> <p>◎友達と作った物を使って、一緒に踊ったり歌ったり、自分なりの表現をする事を楽しむ。(思・協・豊・道)</p>
<p>8:00</p>	<p>環境構成 ★教師の援助 *予想される子供の姿</p>	<p>★登園してきた子供一人一人の顔を見ながら「今日も一日楽しく遊ぼう」と思えるように明るく挨拶を交わし、子供の様子や健康状態を把握する。(健)</p> <p>□一日の生活に見通しをもてるように生活の流れを掲示する。(健・自)</p> <p>★園に応じて言葉かけをし、スムーズに朝の準備や遊びに取り掛かれるようにする。(健・自)</p> <p>*準備に時間がかかる為、カードを使いながら準備をするだろう。</p> <p>⇒★準備カードを個別に作り、見通しをもって準備ができるようにする。</p> <p>□自分たちで考えて遊びの準備が出来るように、素材や用具等を十分に準備しておく。(健・自)</p>	<p>★登園してきた子供一人一人の顔を見ながら「今日も一日楽しく遊ぼう」と思えるように明るく挨拶を交わし、子供の様子や健康状態を把握する。(健)</p> <p>□一日の生活に見通しをもてるように生活の流れを掲示する。(健・自)</p> <p>★園に応じて言葉かけをし、スムーズに朝の準備や遊びに取り掛かれるようにする。(健・自)</p> <p>*準備に時間がかかる為、カードを使いながら準備をするだろう。</p> <p>⇒★準備カードを個別に作り、見通しをもって準備ができるようにする。</p> <p>□自分たちで考えて遊びの準備が出来るように、素材や用具等を十分に準備しておく。(健・自)</p>	<p>★登園してきた子供一人一人の顔を見ながら「今日も一日楽しく遊ぼう」と思えるように明るく挨拶を交わし、子供の様子や健康状態を把握する。(健)</p> <p>□一日の生活に見通しをもてるように生活の流れを掲示する。(健・自)</p> <p>★園に応じて言葉かけをし、スムーズに朝の準備や遊びに取り掛かれるようにする。(健・自)</p> <p>*準備に時間がかかる為、カードを使いながら準備をするだろう。</p> <p>⇒★準備カードを個別に作り、見通しをもって準備ができるようにする。</p> <p>□自分たちで考えて遊びの準備が出来るように、素材や用具等を十分に準備しておく。(健・自)</p>
<p>8:30</p>	<p>○当番の仕事をやる。 ・お水お湯へ ・テラスの掃除 ・お盆の片付け ・用具等の準備</p>	<p>□仕事内容や始まりの時間を掲示し、時間を意識しながら友達同士話し合い合って活動できるようにする。(自・協)</p> <p>□遊んでいる子供達は片付けの時間をタイムタイマーで示し、見通しをもって片付けが出来るようにする。(健・自)</p> <p>★声をかけ合って集まる様子や当番の仕事や友達と協力しながら行っている様子を見守り、頑張っている姿を認めていく。(協・自)</p> <p>★当番の子供達が遊びに必要な用具を準備する上で、安全に準備が出来るように見守ったり状況に応じて一緒に準備したりする。(健・自)</p>	<p>□仕事内容や始まりの時間を掲示し、時間を意識しながら友達同士話し合い合って活動できるようにする。(自・協)</p> <p>□遊んでいる子供達は片付けの時間をタイムタイマーで示し、見通しをもって片付けが出来るようにする。(健・自)</p> <p>★声をかけ合って集まる様子や当番の仕事や友達と協力しながら行っている様子を見守り、頑張っている姿を認めていく。(協・自)</p> <p>★当番の子供達が遊びに必要な用具を準備する上で、安全に準備が出来るように見守ったり状況に応じて一緒に準備したりする。(健・自)</p>	<p>□仕事内容や始まりの時間を掲示し、時間を意識しながら友達同士話し合い合って活動できるようにする。(自・協)</p> <p>□遊んでいる子供達は片付けの時間をタイムタイマーで示し、見通しをもって片付けが出来るようにする。(健・自)</p> <p>★声をかけ合って集まる様子や当番の仕事や友達と協力しながら行っている様子を見守り、頑張っている姿を認めていく。(協・自)</p> <p>★当番の子供達が遊びに必要な用具を準備する上で、安全に準備が出来るように見守ったり状況に応じて一緒に準備したりする。(健・自)</p>
<p>9:00</p>	<p>○活動前の集まりをする。 ・今日の活動の流れを知る。</p>	<p>□生活の流れの掲示を元に一日の流れを伝え、生活に見通しができるようにする。前日にできた約束事等がある時は再度確認する。(協・道)</p>	<p>□生活の流れの掲示を元に一日の流れを伝え、生活に見通しができるようにする。前日にできた約束事等がある時は再度確認する。(協・道)</p>	<p>□生活の流れの掲示を元に一日の流れを伝え、生活に見通しができるようにする。前日にできた約束事等がある時は再度確認する。(協・道)</p>
<p>9:10</p>	<p>○好きな遊びをする。 ①戸外遊び など ・リレーごっこ ・チャレンジする遊び ・砂場遊び ②ドングリ迷路 ③ショーごっこ ④製作遊び 等</p>	<p>□遊びを十分に楽しめるような場と時間を確保する。</p>	<p>□遊びを十分に楽しめるような場と時間を確保する。</p>	<p>□遊びを十分に楽しめるような場と時間を確保する。</p>
<p>10:10</p>	<p>○片付けをする。 ・遊具や道具の片付けをする。 ・うがい、手洗い 排泄をすませて集まる。</p>	<p>□片付けの時間が分かるよう時計や時間の表示を準備する。(自)</p> <p>★汗をかいた時に着替えたり、水分補給をしたりしている姿を認める。また教師も水分補給をしたり、休憩したりする姿を見せ大切に気付くようにする。(健・自)</p> <p>★自分たちの遊んだ場所を、友達と力を合わせて最後まで片付けの姿や工夫しながら片付けの姿を周りの子供達へも知らせる事で、片付けの大切さに気付くようにする。(今日・時)</p> <p>★それぞれのコーナーで明日以降も遊びが継続できるように、教師も一緒に子供と相談し、工夫しながら片付ける。(自)</p> <p>★教師も子供と共に片付け、自分たちの遊んだ場所を整え、綺麗になった気持ちよさを合わせる心地よさが感じられるようにする。(健・自)</p>	<p>□片付けの時間が分かるよう時計や時間の表示を準備する。(自)</p> <p>★汗をかいた時に着替えたり、水分補給をしたりしている姿を認める。また教師も水分補給をしたり、休憩したりする姿を見せ大切に気付くようにする。(健・自)</p> <p>★自分たちの遊んだ場所を、友達と力を合わせて最後まで片付けの姿や工夫しながら片付けの姿を周りの子供達へも知らせる事で、片付けの大切さに気付くようにする。(今日・時)</p> <p>★それぞれのコーナーで明日以降も遊びが継続できるように、教師も一緒に子供と相談し、工夫しながら片付ける。(自)</p> <p>★教師も子供と共に片付け、自分たちの遊んだ場所を整え、綺麗になった気持ちよさを合わせる心地よさが感じられるようにする。(健・自)</p>	<p>□片付けの時間が分かるよう時計や時間の表示を準備する。(自)</p> <p>★汗をかいた時に着替えたり、水分補給をしたりしている姿を認める。また教師も水分補給をしたり、休憩したりする姿を見せ大切に気付くようにする。(健・自)</p> <p>★自分たちの遊んだ場所を、友達と力を合わせて最後まで片付けの姿や工夫しながら片付けの姿を周りの子供達へも知らせる事で、片付けの大切さに気付くようにする。(今日・時)</p> <p>★それぞれのコーナーで明日以降も遊びが継続できるように、教師も一緒に子供と相談し、工夫しながら片付ける。(自)</p> <p>★教師も子供と共に片付け、自分たちの遊んだ場所を整え、綺麗になった気持ちよさを合わせる心地よさが感じられるようにする。(健・自)</p>

別紙参照

環境図 (遊びの配置表)

チャレンジカード (園庭) 【健・自】

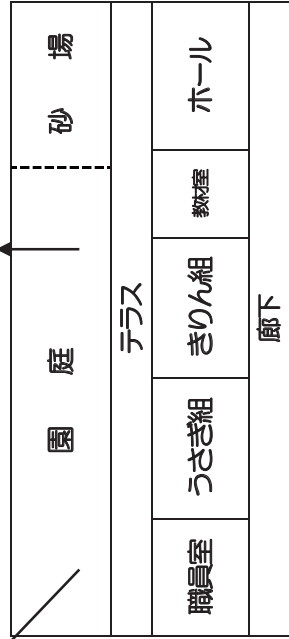
- 運動遊びにチャレンジできるような環境 (チャレンジカード) を設定し、自分なりの目標を定めようとする。
- ★チャレンジカードに意欲的に取り組んでいる姿を認める。また、挑戦している姿や友達を応援する姿を認め、興味が無い子供への意欲付けや自言や友達とのつながりを深めていく。(自)
- ★興味を示さない子供には出来そうなチャレンジを誘い出し、興味を持つようにする。
- ★教師もチャレンジカードの仲間に入り状況によってそれぞれの運動遊びのコツを知らせ、目標をもって取り組めるような言葉かけや、「何回できたかな?」等、数を意識できるようにする。(健・自・数)
- ☆自分の力でやりたい気持ちを受け止めながら、登り棒の下で見守り、危険な様子が見られたら補助する。(自)

リレ-ごっこ (園庭) 【健・自・協・道・数・言】

- 安全に遊ぶ事が出来るように、危険な場所は白線を引く。遊びの様子を捉え、状況に応じてそれぞれその遊びの場所の場所を確保をする。
- 子供たちが自分で準備が出来るよう、用具 (コーンやバトン、タスキ等) を取り出しやすい場所に準備しておく。
- ★遊びが広がり、思い切りの活動出来る。時々どうすれば良いか子供たちと一緒に考えていく。
- ★自分たちで作ったルールを守れない子供には、約束やルールの大切さを伝えると共に守らせなければならないのかを一緒に考えたり、一緒に遊んでいる友達に気付かせるような言葉かけや考える時間を作ったりしながら、次の行動へつなげる。(道)
- ★思いや考え方の違いでトラブルになる際は、一緒に遊んでいる友達に思いや考え方を分けて、子供達で解決する様子を見守ったり、状況を見て解決策を一緒に考えたりする。(言・道)
- ★子供達で役割分担している姿や応援し合っている姿等を認めていく。

ショ-ごっこ (ホール) 【健・協・道・思・数・言・豊】

- ショ-の役割によって場の構成を変えられるように用具 (机やCD) などを用意できるようにしておく。
- 友達と一緒に遊びの場を作りだしたり、イメージしたものを形にしたりとできるような、場所や材料の準備をする。
- 遊びが広がるような材料 (カラービニール袋やお花紙、秋の自然物など) を意図的に置いておく。
- ★イメージを膨らませながら衣装作りをしたり、友達と思いや考えを出し合ったり、相手の思いを受け止めたりしながら遊びを進めている姿を見守ったり、具体的な部分を認めたりする。(協・思・言)
- ★友達と協力している姿や工夫している姿等を認め、遊びが発展していくようにする。(協・言・思)
- ★遊ぶ様子を捉えながら、興味を表現しようとしている事を捉え、足のない物や興現でできない事は材料の使い方等をアドバイスして補助する。
- ★思い通りにできず教師に頼る子供には、作っていく工程を示したり、コツが分かるよう補助したりしながらイメージに合うものが作れるようにしていく。また、友達同士で伝えあったり教えあったりできるような雰囲気を作る。(思)
- ★自分の思いや考えだけで相手の思いを考える事が難しいには、一緒に遊んでいる友達と相談したり思いに気付いたりできるような促し、友達を意識して遊べるようにする。(道)
- ★ショ-の順番や内容などを自分たちで考えながら進めている様子を見守りながら、「どうすれば順番がわかりやすいかな。」等、文字で伝える事や遊びを広げるヒントになるような言葉かけをする。(言)
- ★教師も皆さんとして参加しながらその役割になりきって表現している姿を認めていく。(豊)



ドングリ迷路 (きりん組)・製作遊び (うさぎ組) 【健・自・協・道・思・数・言】

- 友達と一緒に遊びの場を作ったり、イメージしたものを形にしたりとできるような、場所や遊びが広がるような材料 (秋の自然物・段ボール・ポンド・セロテープ・廃材) を十分準備する。
- 工夫して作っている姿や出来たものを発表できる時間や場を確保する。
- 製作物を掲示できる場所を作り、周りの子供達の刺激となるようにする。
- ★友達と思いや考えを出し合ったり、相手の思いを受け止めたりしながら遊びを進めている姿を見守ったり、協力している姿や具体的な部分を認めたりする。(協・思・言)
- ★点数を数え合ったり、傾斜やドングリを転がすスピードなど工夫したりしている姿等を認め、遊びが発展していくようにする。(協・数・言・思)
- ★遊ぶ様子を捉えながら、興味を表現しようとしている事を捉え、足のない物や興現でできない事は材料の使い方等をアドバイスして補助する。また、ルールが出来ている時には、教師もそのルールに参加しながら、遊びのルールが共通化していく事に気付かせていく。(思・道)
- ★思い通りにできず教師に頼る子供には、作っていく工程を示したり、コツが分かるよう補助したりしながらイメージに合うものが作れるようにしていく。また、友達同士で伝えあったり教えあったりできるような雰囲気を作る。(思)
- ★遊びに入りにくい子供には一緒に興味をもてもらう遊びを探したり、製作コーナーで遊ぶきっかけを作ったりして安心して過ごせる環境作りをしていく。(健・言・協)
- ★自分の思いや考えだけで相手の思いを考える事が難しい子供には、一緒に遊んでいる友達と相談したり思いに気付いたりできるような促し、友達を意識して遊べるようにする。(道)

ショ-ごっこ (ホール) 【健・協・道・思・数・言・豊】

- ショ-の役割によって場の構成を変えられるように用具 (机やCD) などを用意できるようにしておく。
- 友達と一緒に遊びの場を作りだしたり、イメージしたものを形にしたりとできるような、場所や材料の準備をする。
- 遊びが広がるような材料 (カラービニール袋やお花紙、秋の自然物など) を意図的に置いておく。
- ★イメージを膨らませながら衣装作りをしたり、友達と思いや考えを出し合ったり、相手の思いを受け止めたりしながら遊びを進めている姿を見守ったり、具体的な部分を認めたりする。(協・思・言)
- ★友達と協力している姿や工夫している姿等を認め、遊びが発展していくようにする。(協・言・思)
- ★遊ぶ様子を捉えながら、興味を表現しようとしている事を捉え、足のない物や興現でできない事は材料の使い方等をアドバイスして補助する。
- ★思い通りにできず教師に頼る子供には、作っていく工程を示したり、コツが分かるよう補助したりしながらイメージに合うものが作れるようにしていく。また、友達同士で伝えあったり教えあったりできるような雰囲気を作る。(思)
- ★自分の思いや考えだけで相手の思いを考える事が難しいには、一緒に遊んでいる友達と相談したり思いに気付いたりできるような促し、友達を意識して遊べるようにする。(道)
- ★ショ-の順番や内容などを自分たちで考えながら進めている様子を見守りながら、「どうすれば順番がわかりやすいかな。」等、文字で伝える事や遊びを広げるヒントになるような言葉かけをする。(言)
- ★教師も皆さんとして参加しながらその役割になりきって表現している姿を認めていく。(豊)

□環境構成 ★教師の援助 ☆T児への配慮 子供の姿 (名前)きりん組 (名前)うさぎ組

砂場遊び 【健・自・協・道・思・数・言】

- 秋の自然物を使えるよう、大きさを種類ごとに分けて使いやすいように置く。
- 砂を固める端の水を子供と一緒に量を考えながらバケツに準備する。
- ★作り方を聞いたり、「おいしそうだね。」など、工夫している所を認めたりする言葉かけをする。
- ★思いや考え方の違いでトラブルになる際は、一緒に遊んでいる友達に思いや考え方を分けて、子供たちで解決する様子を見守ったり、状況を見て解決策を一緒に考えたりする。(言・道)
- ★砂を上から落としたり、ばらまいたりする姿が見られた時は、思い切りの遊べるよう、線をひいて『砂を落とすもよいコーナー』を作る。

公開保育の活動に関連した実践記録

平成 29 年 11 月初旬～	1 年保育 5 歳児
どんぐりで「ゲームセンター」をしよう 平成 29 年 11 月 9 日	
幼児の姿・活動	○率直な思い ◆判断 ・手立て *反省
<p>好きな遊びになって、L 児が、「どんぐりでゲームセンターをしよう」「ぼくもする」と言って 5 人が集まる。</p> <p>R 児、K 児、Y 児は材料置き場に行き、互いに選ぶ材料を見合い 20 cm 四角の箱を持って机の上に横に並べる。R 児は K 児を見ながら、「ぼくはお兄ちゃんが作ったのを作る。お兄ちゃんはビー玉でしたけど、ぼくはどんぐりです」と言いながら箱に爪楊枝を 2, 3 cm 置きに刺していく、箱の紙が堅くないので爪楊枝が簡単に刺さっている。ゲーム機の奥の中央に、牛乳パックの底を切ったサッカーゴールに似たものを置き、ゲーム機よりも広いダンボール箱を持ってきて、R 児と、K 児の、ゲーム機を中に入れて丁度入る。</p> <p>次に輪ゴムの輪を切って、切った片方に割り箸をセロテープで貼り、もう片方をダンボール箱に貼り付けたので、割り箸のゴム紐付きバットがダンボールに固定される。</p> <p>R 児「よしできた」と言って、<u>割り箸を引っ張り、ゴムを伸ばして、割り箸の先をどんぐりに向</u> <u>けねらいを定めて手から離すと、どんぐりに当た</u> <u>ったが、どんぐりは少し動いただけ。何度もやっ</u> <u>てみるが少し動くだけで飛ばない。何度やっても</u> <u>ビクともしないで、割り箸の方が曲がったのを見</u> <u>て、R 児「どんぐりが大き過ぎて重たい」と気付く。</u> <u>トングリ箱の中をさがして、5 mm 位のどんぐりを</u> <u>見つけて大きいどんぐりと取り替え、割り箸を後</u> <u>ろに引っ張って離す！とどんぐりは見事に飛んで</u> <u>ゴールに入る。</u></p> <p>R 児「やったー！」と笑顔になり、急いでどんぐり置き場へ行き、中をのぞき込み小さいどんぐりを 5 個見つけると大事そうに持っていた。その後、材料置き場で、いろいろな容器を手にとって見ていたが、ペットボトルのふた 2 個を合わせて、</p>	<p>○L 児が、独り言のように言ったのを聞きつけ、ゲームセンターに興味をもった 5 人が集まったようだ。</p> <p>◆3 人が材料置き場へ直行したのはゲームセンターを、よく知っているのだろう。</p> <p>(2) 自立心</p> <p>◆ R 児は、「お兄ちゃんが作ったゲームセンターを作る」と言った。R 君は、みんなと拾ったどんぐりを使うことを K 児に言葉で伝える過程に自己伝達され、自己認識が働き、自覚（ぼくはぼくなんだ・自立心）へと繋がったのではないか。尊敬するお兄ちゃんのゲームセンターが Y 児の製作動機の出発点になっている。友達と地域のおばさん達と挨拶を交わしながら行った“どんぐり拾い”など園生活での感動体験が R 児の自立を促している。</p> <p>(10) 豊かな感性と表現</p> <p>◆R 児は、ゲーム機の材質が弱くて大きいどんぐりが当たると大揺れすることに気付き、大きなダンボール箱を持ってきて、R 児、K 児のゲーム機をダンボールの中に入れて安定させる。</p> <p>→(6) 思考力の芽生え</p> <p>○R 児が一生懸命見つけた小さいどんぐりは、山で拾う時は人気無く、大きいどんぐり拾いに夢中の子供が多かった。どんぐりを拾うときの興味と、それを使って何かを作ろうとする時の興味や必要感は同じではないことをあらためて感じる。</p> <p>◆R 児は、持っている限りの貴重などんぐりと工</p>

1 カ所にセロテープを貼った。ドングリを入れてポケットに入れて歩いたり、時々蓋を取って中のドングリを見たりしていたが、ゲーム機の横にセロテープで固定する。

A 児は、R 児達から少し離れた床にゲーム機を置いている。ゲーム機の周りに階段を付けているが“むりょう”と前や横に看板を出している。

担任の先生が「A 君のお店は無料なの」と聞いている。

R 児「あのな、ドングリのゲームセンターなんや、お客さんもドングリなんや、ドングリはお金持ってないし、だから無料なんや」

R 児のゲームセンターの前にいつの間にか行列ができています。どの子の視線もペットボトルのふたの容器に注がれている。自分の番になると、喜びと緊張の表情で容器からドングリを取り出し、割り箸のバットで突く。

A 児はゲーム機を R 児達の横に並べ、”むりょう”と厚紙に書いて箱の前に立てる。「ぼくところは無料」と言う。

L 児は A 児に「お金は作ればいいわ」と言って担任に書いてもらった“げーむせんたー”の見本を見ながら、厚紙にクレパスで“げーむせんたー”と看板を書いている。

A 児「それ看板？もっとぶったい方がいいよ」。

L 児、A 児の方を見て、「わかったマンガの字がいい、マンガの字にする」と言って2~3 cm位の太さにしていく。

A 児が「できたな」と言ってクレパスを持ってくると、言葉が聞こえたのか仲間の5人がクレパスを持って集まってくる。先ず、文字を塗ると申し合わせたように文字の周りにお花や動物など思い思いの物を描いては塗って行く。

終わると、A 児の使った厚紙の残りを切ってお金を作る。1000と10000が多い。A 児「先生これ

夫して作ったお気に入りのドングリ入れを、満足感に浸り置き場所などを考えていたのではないか。今までの R 君だったら「お兄ちゃんに見せる事を選択したかも知れないが、今日の R 君は“友達との共有”を選択する。

○A 児のゲームセンターは、“無料”なのにお客さんが来ないのはなぜだろう。

○状況を見守りながら A 児が自分の生活を作り出し、充実感を味わい、他児も参加の方法を見いだせる保育者の臨機応変な関わりの必要を感じる。

○幼児は、興味あるものを瞬時に捉えている。お客さんになった子供は、ペットボトルで出来たドングリ入れを、喜びと緊張と畏敬の念ともいえる表情で、ふたを開けドングリを一つ取り出して、割り箸のバットで突く。

○A 児が、R 児の横にゲーム機を引っ越したのはお客さんに来てほしい願いの表現と思われる。

○L 児は、A 児に、「お金を使うとお客さんが来る」と伝えているのではないか。

○L 児は、率先して、看板をつくっている。

○“ぶったい”は、大きいと言う造語

(10) 豊かな感性と表現

○ゲームセンターの仲間は、言葉の関わりは少ない。看板に思い思いに描いているにもかかわらず文字と模様、配色など調和している。互いに感性を働かせ感じたことや考えたことを表現することを楽しんでいる。

(8) 数量・図形、標識や文字等への関心・感覚

◆子供に聞かれ、咄嗟に位取りで伝えると、思い

<p>いくら」と聞かれ、「1, 10, 100, 1000, 10000、これ1万円は丸が1, 2, 3, 4,4つ、千円は、3つ」と答える。</p> <p>A児「100円は、2つで、10円が1つ?」。</p> <p>「その通りー」。周りの子供が大笑い。</p> <p>しばらくして方々から「1, 10, 100, 1000, 万」という声が聞こえてくる。</p>	<p>がけず興味を持ち繰り返しを楽しむ場となる。</p>
<p>「どんぐり、何個ゲットできたかな」 平成 29 年 11 月 14 日</p>	
<p>昨日出来た、1m位のダンボール箱を斜めに立て巻き心や長い空き箱などを縦に繋いだゲーム機に人気が集まっている。</p> <p>S児、何度もゴールにねらいを定めてスタートに入れているのに飛び出す。ゴールを見る目が真剣になる。一旦、入ったのに飛び出す。</p> <p>後ろに並んでいたG児「どんぐり替えたら入るときあるよ」とS児に言う。</p> <p>S児「小さいのに替えて見ようか」と小さいどんぐりに替えて試す。「入った!」とうれしい表情になり「G君ありがとう」とお礼を言う。</p> <p>Y児、「今度おれ、おれ今16個になった、今度は2番を狙う」入る「よし!17個になった!」</p> <p>T児、いつも一緒に支援の先生を抜き、自分一人でゲームセンターに来ている。来た順に並び前の友達の様子をうれしそうな表情で見ている。T君の番になると、スタートからゴールまでを指でたどり、スタートにどんぐりを入れる。“コットン”とゴールに入る!</p> <p>H児、「ぼくは36回目で、46個ゲットした!」</p> <p>T児「ぼく78個以上あるよ」</p> <p>M児「ぼく69個ある」座って数え始める。</p>	<p>○大きな立派などんぐりを親玉にしている。お気に入りの立派などんぐりが入っても飛び出すため、満足ができずに繰り返し試す。</p> <p>○「入るのに飛び出るのはどうしてかな」と不思議がる。</p> <p>○G児の言葉を聞いたS児はしぶしぶ小さいどんぐりを取り出すが、「スタートにいれる!」と、ゴールに直行する。</p> <p>○小さいどんぐりをゴールさせ、S児の表情がパッと笑顔になる。</p> <p>○Y児は、集まったどんぐりの数に興味が増えた数を確認してく。</p> <p>◆どんぐりを、同じ透明容器に入れているので増えた量や量の違いがよく見える。</p> <p>○どんぐりを持っている友達に出会うと、どんぐりの数を知らせ合うようになる。</p> <p>(8) 数量・図形、標識や文字等への関心・感覚 どんぐりの数に興味を持ち、知らせ合っている</p> <p>○T児が支援の先生がいなくても、自己目的を持って行動できる時が増えてきている。</p> <p>○H児は、36回挑戦して、46個集まったようだ。</p> <p>○T児は、自分で確認出来ないようだ。</p> <p>○M児は、69個と、みんな数への興味・関心が高まってきたが、踊りや、運動的な遊びに今夢中で、参加していない子供もいる。</p>

(2) 考察

「幼児の生活や遊びの姿から「10の姿」を捉える」

11月初旬から始まった活動の観察を通して、幼児の行動、表情、言葉から「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を視点にもち、子供の姿を捉えてきた。

具体的にどのように捉えたか、10の項目でより関連の強く見られた姿をまとめてみる。

(2) 自立心

R児には、尊敬するお兄ちゃんのゲーム機が、R児の製作意欲の起点になっている。「お兄ちゃんはビー玉でしたけどぼくはドングリです」とK児に伝えながら、「お兄ちゃんとは違う自分」「自分のしたいこと」を自分で認識することにつながっていったのではないかと考える。

友達といっしょに出かけた「ドングリ拾い」では、地域のおばさんに挨拶を交わしながら歩いて、ドングリを見つけた経験など、園生活の遊びにおける感動体験が身近な環境に主体的に関わり、様々な活動を楽しむ中で、自分で行ったり考えたり工夫したりしながら、諦めずにやり遂げ、達成感を味わうことができたようである。

(3) 協同性

「ゲームセンター」をいっしょに作るなかで、ドングリがゴールに入らない友達の困りに気付き、「小さいドングリは入った」自分の経験を伝えている。それぞれの気付きを伝え合い、それを受け止め、友達から聞いたことを試し、大きさの違うドングリに換えることでゴールに入る成功体験を通し、遊びがより面白くなったという満足感をもつことができた。友達と関わる中で互いの思いや考えを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり工夫したり、協力したりする子供の姿が見られた。

(6) 思考力の芽生え

「割り箸の先をドングリに向け、ねらいを定めて手から離す」ことを繰り返すうち、割り箸の先が曲がったのを見て、「ドングリが大きすぎて重い」ことに気付いた。自ら判断し、小さいドングリを探して替えることでゴールに入れることができるなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようにする。

(8) 数量図形・標識や文字などへの関心感覚

透明容器の同じ容器をドングリ入れにしたことにより、互いのドングリの量の違いに気付き、「36回目まで46個」「78個以上ある」「69個ある」など、量や数に興味関心をもつようになる。

(3) 実践を振り返って

11月までに少し欠けているのではないかと感じる【⑥思考力の芽生え】【⑧数量や図形…】【⑩豊かな感性と表現】の姿を意識した活動として、地域探検で拾ったどんぐりを遊びに活かす事は出来ないだろうかと考え、①どんぐりゲームセンター、②ショーごっこ、③チャレンジカードという遊びが生まれるよう環境を設定した。

- ・友達と誘い合って意欲的に遊びに取り組んだり、思いや考えを出し合いながら遊んだりする楽しさを味わう。
- ・自分なりの目的をもって取り組み、自分の力を出して行くことに喜びや達成感を感じる。
- ・友達と一緒に遊び方やルールを考えながら、遊ぶ事を楽しむ。

というねらいの保育を行った。

①ゲームセンター

数量に興味をもつようになるための手立てとして、子供のつぶやきから取り入れた『ごほうびどんぐり』は子供たちのゲームセンターに対する興味だけではなく、数を意識するための方法として、とても有効だった。そこから数を意識したゲーム作りへと思考が移行し、難しくするためにはどうすればよいか。もっと楽しくするためにはどうすればよいか等、試行錯誤しながら改良を繰り返したり、テーブルホッケーのように新しい物を生み出したりする姿は、「思考力の芽生え」へとつながった。

『同じ大きさの透明容器』『どんぐり何個集まった？のシール表』は目に見える形で子供達が「多い」「少ない」「同じくらい」「僕より少しだけ多い」とどんぐりの量を比較したり、シール表を見ながら表全体を見て、1番多い友達を探したり、友達同士比べ合ったりする姿が見られた。また、昨日の自分との比較も出来ており、数量に関心をもつ手立てとして有効だった。

お店屋さんになった子供は、どんぐりの数が少なかったが、「5に入ったどんぐり5個です。1. 2. 3. 4. 5」と数えながら渡していることから「数量や図形・標識や文字などへの関心感覚」へとつながったと言えるだろう。

②ショーごっこ

ショーごっこでは、どんぐり2個、まつぼっくり2個とチケットが引き替えられる。チケット3枚もらうためにどんぐりを数えながら6個もってショーに行く姿が見られた。時計を見ながら、時計が4から、9からなど他の遊びも楽しむためにはどうすればよいか見通しをもって考える姿もあった。

今までショーごっこに興味をもたなかった子供も、友達の姿を見て「僕もショーをしてみたい。」と友達や教師の助けを借りながら衣装を作った。環境設定として豊富な材料を置いていたり、鏡を見ながら衣装を工夫して作ったりする姿は「思考力の芽生え」へとつながったのではないかと考える。

曲に合わせて大きく体を動かしたり、友達と意思疎通しながら体型移動をしたりする姿が見られた。楽しそうな姿や「かっこいい」と認められる事により、さらに自分の姿をよく見せようと側転を増やしたりする姿もあり、「豊かな感性と表現」の育ちの姿につながったのではないかと考える。

③チャレンジカード

公開保育当日は、天候が悪かったため戸外に出る子供はほとんどいなかった。フラフープやスイングスキップ等、自分で数を数えながら取り組む。「今日は10回できた。次は20回目目指すぞ！」と自分なりの目的をもって取り組む姿がある。

自分の数だけではなく、友達同士数え合う姿が見られる。上手に数えている姿もあるが、スイングスキップやフラフープの回し方が速くなると、だんだんずれていく様子も見られた。

チャレンジカードにはクリアするとシールがもらえる。シールの数を数えたり、友達とシールの数を比較したりしながら、刺激を与え合う。

渡り鉄棒では1本、2本と数えながら、「今日は5本まで行けた。」と数を意識しながら取り組んでいる。運動が得意な友達は、100回以上出来る子供がおり、遊び会議の中で、友達のすごさを認め合い、ここまで出来て嬉しかった。などの感想を言い合う姿が見られた。

【今後の課題】

興味をなかなかもてない子供は、それぞれの育ちの段階もあるがその点を考慮しながら、どのように興味をもたせていくべきかが今後の課題の1つとして言えるだろう。

今回、自分の体で表現するショーごっこを設定したが、ペープサートや劇などいろいろな方法で「豊かな感性と表現」が出てくるような環境構成や保育の設定をしていく必要があると感じた。

(幼児の実態)

11月になって、地域の小山に皆でドングリや松ぼっくり拾いに行く。「ドングリでゲームセンターをしよう。」と5人が集まる。そのうち3人は同じ位の箱を繋ぎ作り始めるが、S児とG児は、牛乳パックで塔を作り上から転がす。フルスピードで転がり込むと見ていた人は歓声を上げる。教師「まだパックあるよ。」高くするとドングリがコースを飛び出す。S児「高いとかっこいい。」G児「でも飛び出る。」S児「ちょっと待って、これ置いてみる。」トイレットペーパーの巻き芯を道にはりドングリを転がす。「おー、いいじゃない!」

<子供の姿>



(幼児の言動や姿)

R児「僕、お兄ちゃんがやったことあるのする。爪楊枝で開けて。」と言いながら爪楊枝を3センチ位の間隔で箱に立てていく。時々、K児の方を見るが、一人で作り続ける。

R児「兄ちゃんはビー玉でしたけど、ドングリでしたらいいわ。」

K児は、R児の話の内容がよく理解出来ない様だが「割り箸でスタートから打つ、そしたらビー玉がころがって入るんで。」とR児に話す。

他児がゲームセンターの看板を作り始めると、R児とK児は看板作りに行き、文字や好きな絵を描き塗る。

R児「お兄ちゃんのはこうなっていた。」と割り箸のゴムの位置を4回、上下に変えて打つがドングリが大き過ぎて飛ばない。「飛ばないねー。」とつぶやくが、ドングリのそばにあった数珠玉を取り出して打つと、飛んでゴールに入る。容器に残りの数珠玉を入れコースの横に固定する。

<教師の援助・考察>

【教師の援助や環境構成】

地域探検で拾った大切なドングリを使って、尊敬するお兄ちゃんの作ったゲームをモデルにイメージを膨らませてゲーム作りを始めたR児。その実現のために、試行錯誤したり友達と考えを伝え合ったりする様子から、R児の思いや考えを感じ取る。

【考察】

- ・お兄ちゃんの作ったゲームをモデルに作ろうとし、飛ばす物の大きさや重さを感じ取ったり、割り箸の当たる角度に気付いたりしている。
- ◇友達の作り方も見ながら、自分の作りたいゲームを完成させようと、考えたり試したりし、自分の考えをよりよいものにしようとしているのではない。… ⑧⑥
- ・ゲームを作りたいと目的をもって遊び、自分に必要な情報を取り入れ、試行錯誤しながら作っていき、最後に容器に数珠玉を固定した。
- ◇諦めずにやり遂げ、達成感を味わっているのではない。… ②
- ・みんなで拾ってきた木の実で、同じ目的の友達とそれぞれが工夫しながら製作していく中で、自分の知っていることを伝えようとしたり、友達の作っているものを見たり、必要なものを一緒に作ったりしている。
- ◇友達同士で考え合いながらできあがっていく喜びを味わっているのではない。… ③



「10の姿」とのつながり

- (2)「自立心」 (3)「協同性」
- (6)「思考力の芽生え」
- (8)「数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚」

事例 「僕も踊ってみようかなあ」

5歳児<Ⅲ期> 11月

(幼児の実態)

誕生会の自主発表をきっかけに、ホールではショーごっこが始まる。最初はジュウオウジャーのダンスだけだったが、友達から刺激を受け、プリキュアやポケモンのダンスも加わった。次第に、秋の自然物を使って、衣装づくりが始まる。カラービニール袋で作った衣装には、ポケットやヒーローをイメージした羽等もついている。思い思いに工夫を凝らして作った衣装を身にまとい、振り付けも自分たちで考えながら、ショーは更に盛り上がりを見せていた。

<子供の姿>



<教師の援助・考察>

【教師の援助や環境構成】

- ・ホールには衣装が作れるようにカラービニール袋や紙テープ、秋の自然物等イメージを実現できるような素材を豊富に準備する。
- ・製作が苦手なT児の踊りたい意欲を損なわないように、衣装作りは見通しがもてるよう切る場所に印を付ける。
- ・気の合う友達が近くにいる事で、友達との関わりがもてるように配慮する。
- ・タイミングを捉え、苦手な表現へのきっかけ作りをしたり、T児の思いを汲んだ言葉かけをしたりする。

(幼児の言動や姿)

どんぐり2つを手に持ってぼつんと座っているT児。手に持ったどんぐりをくっつけたり離したりを繰り返している。

教師「くっつけたいの？」

T児「衣装作りたいです。」

教師「ホールに行ったら、衣装作れるんじゃない？」と促し、T児と一緒にホールへ向かう。

教師「T児君も踊ってみるの？」

T児「うん。」と笑顔で言いながら、水色のビニール袋を嬉しそうに広げているが、見つめたまま衣装を作ろうとしない。

教師「衣装を作りたいなら、ここを切ったらいいよ。押さえとくね。」とT児に言いながら、「A君、H君お手伝いしてあげてくれる？」と尋ねる。

A児とH児は、教師の問いかけに快く返事をする。しばらくすると、H児は立っているT児の体にビニールを合わせ、頭に巻き付ける飾りの画用紙をT児の頭に巻きサイズを測る。

H児「いい事、考えた！」と姿見の前にT児を誘い、ショップの店員のように衣装などを合わせて試す。

T児は、H児に対して嬉しそうに微笑む。

H児「曲、何？」の問いかけに戸惑い返事をしないT児。

H児「俺と一緒にジュウオウジャー踊る？」と誘う。

T児は、H児の誘いに嬉しそうに頷き、出来上がった衣装を着て姿見に自分を映し、にっこり微笑む。

その日の遊び会議で、衣装を作って楽しかった事。友達が手伝ってくれて嬉しかった事。ジュウオウジャーの踊りをやってみたくらいをしっかりと発表することができ、次の日から、H児と一緒にリズムに合わせて体を動かしながら表現するT児の姿があった。

【考察】

・表現する事が苦手で、どんぐりを動かしながら一人で座っていたが、教師から声をかけられ自分の思いを伝えることができた。

◇心を動かす友達のショーを見たこと、更に、安心して話せる教師から問いかけることで、思いを伝えたい気持ちが高まり、言葉での表現方法で答えたのではないかと…⑩

・衣装作りの活動では教師から尋ねられたことに笑顔で「うん。」と言ったり、友達の問いかけに返事をしなかったりしていたが、遊び会議では、友達にしっかりと自分の思いを発表している。

◇友達が自分のためにしてくれている嬉しさや衣装が出来上がっていく喜びを感じながら、相手に自分の思いを分かってもらいたい気持ちが高まってきたのではないかとと思われる。更に、話し合いの場で、自分の話したことを友達が聞いてくれたことで、言葉での伝え合いが心地よいと感じるようになってきているのではないかと…⑨

・座ったままどんぐりを動かすだけの表現から、教師や友達との関わりを通して思いや考えを言葉で表現できるようになった。また、友達と一緒にリズム表現もするようになっていく。

◇相手に伝わる表現方法に気づき、心が通う嬉しさや表現することの楽しさを味わい、意欲的に活動に参加できるようになってきたのではないかと…⑩



「10の姿」とのつながり
 (9)「言葉による伝え合い」
 (10)「豊かな感性と表現」

事例 「フラフープを回す」

5歳児 <Ⅲ期> 9月

(幼児の実態)

9月になってフラフープを使い、自然に友達と転がし競争になる姿やフラフープを回そうと頑張る姿が見られるようになる。S児は1学期回せなかったフラフープを落ちては拾い上げ頑張る様子が見られる。

<子供の姿>



<教師の援助・考察>

【教師の援助や環境構成】

- ・ 1学期の活動に継続して遊べるよう、また、友達遊びが見えるよう、園庭にフラフープを準備しておく。
- ・ 子供の頑張る姿を側で見ながら、認めていくようにする。
- ・ やっと回せるようになったS児には、喜びを共有したいので声をかけたい。

【考察】

- ・ やっと回せるようになり、近くにいる教師に見せたり、回せるようになるための方法を聞かれ体で表現して教えたりしている。自分の教え方で相手が回せるようになると、違う回し方に挑戦し、更に認められる。教師の言葉による問いかけに、練習すればできるという実感を言葉で表現し、更に新しい回し方に挑戦している。
- ◇少しずつ回せるようになっていく自分に気づきながら、上手になりたいという目標に向かって努力することで、“繰り返し挑戦すればできる”という達成感を味わっているのではないかと。…①②
- ◇言葉で教師と喜びを共有すると共に、たくさん回せるようになった自分を自覚し、言葉による伝え合いを楽しみながら新しい課題に向かおうとしているのではないかと。…⑨

(幼児の言動や姿)

S児「あんな、足でも回せる。」「お腹でも回せる。」と足やお腹でも回して見せる。
 教師「どうしたら回るん？」
 S児「ほら回したらいい。こうやって。」と回して見せる。
 教師も真似して回すと、3回くらい回る。「回った」
 S児「上手になったやん！」
 教師「ありがとう！！」
 S児「足でも回せる」と必死の表情。よく回っている。
 教師「S君すご〜い！今日いっぱい回るようになったなあ。お家でも練習したん？」
 S児「いいや。今なった。できんと思っちゃっても、何回もしよったらできる！」
 S君「ケンケンで回しちゃろうか！」と挑戦する。



「10の姿」とのつながり

- (1)「健康な心と体」 (2)「自立心」
 (9)「言葉による伝え合い」



事例

「地域探検」

5歳児

<Ⅲ期>

9月

(幼児の実態) 日出町内外の人々が4月は桜の花見に出かける「魚見桜」の右木がある草原へ地域探検の日。
 “バッタやコオロギ、とんぼ、虫葉”をつかまえたい、“きれいなお花”を取りたい、“どんぐりや栗”を取りたい等思いの目的をもち、道で出会った人には『こんにちは。』を言おう。「一人でどこかに行かないようにしましょう。」等約束をし、初めての地域探検。地域に詳しい方に車の通りの少ない安全な道を案内していただく。

<子供の姿>



<教師の援助・考察>

【教師の援助や環境構成】

教師は、子供同士で解決できるように少し離れて、その様子を見ておく。

【考察】

- ・ S児は、Y児にかたつむりを取り上げられ嫌な気持ちになったがR児から「最初R児が見付け、道路に置いた。」と伝えられ、Y児とS児はどうして道路にいたかが分かり、かたつむりの取り合いをやめる。
- ◇ 友達の考えを聞き、その言葉の意味を考え、友達の思いを察し、自分の行動を制したのではないか。…④
- ・ 5人でかたつむりの危険のない場所を探し、安全な場所を探し壁のそばと決定する。
- ◇ かたつむりのことを考えていく中で、命あるものとしての意識が芽生え、自分たちで命を守ろうとしているのではないか。…⑦



「10の姿」とのつながり

- (4)「道徳性・規範意識の芽生え」
- (7)「自然との関わり・生命尊重」

(幼児の言動や姿)

- S児「かたつむり発見！道路におる！」
- Y児「本当や貸して」と言って取り上げる。
- R児「それ最初Rが見つけたんで。葉っぱにおったから道に置いたんで。」
- S児「でも、道路におったら危ないかもしれん。」
- R児「じゃあ葉っぱに戻せばいいやん。」
- S児「でも葉っぱはこうなっちゃん(手で斜めを表現)、落ちるかもしれん。」
- H児「じゃあこの葉っぱの下の壁のところ置いてあげればいいんやない。」
- T児「そうやな。」壁のそばに置く。



(幼児の言動や姿)

- 他児「今日は、魚見桜に虫取りに行く！」
- 「せみの抜け殻発見！」
- 他児「犬の名前は何か？」等自然に関わる。木々の間に細い道が見えると、
- M児「ここお化け屋敷に行く道で！」と、お化けの表情。
- R児「行ってみたい」等、言ったり、お化けらしい歩き方をしたりする。

【教師の援助や環境構成】

- ・ 坂道を登っていくと、実り間近な稲や、草むらが多くなる柿の実もなっている。
- ・ 犬を抱いたお婆さんが「犬が外に出る出る言うから。」と笑顔で迎えてくれる。「どこ行くの？」と尋ねられる。
- ・ 安全面に配慮しながら地域の方との関わりをもてるようにする。

【考察】

- ・ 地域の方からの声かけに、素直に受け答えしている。
- ◇ 地域の人と関わりながら、様々な関わり方に気付き、家族以外の人とも親しみをもつようになるのではないか。…⑤
- ・ 地域の自然に触れて、心動かされたことを話したり、相手の話を興味をもって聞いたりし、共感し合っている。
- ◇ 自然の中の雰囲気などからイメージを広げ、思ったことや考えたことを言葉で伝えたり、動作や表情で表現し合うことを楽しんでいるのではないか。…⑨



「10の姿」とのつながり

- (5)「社会生活との関わり」
- (9)「言葉による伝え合い」

事例 地域探検 “ドングリ拾い”

5 歳児<Ⅲ期> 11月

(幼児の実態)

幼稚園から歩いて20分位の海に面した小山(島山)にドングリの木がある。先生方が下見で調べた柿やレモンの木のある安全な道をドングリ拾いに行く。出会った地域の人々と挨拶を交わしながら、子供達の足は自然に早歩きになる。「この上がそうだよ。」みんなスピードアップ!駆け上って行く。

<子どもの姿>



(幼児の言動や姿)

子供たちは木を見上げたり、落ちていたドングリや木の葉を拾っている。

B児「ドングリ帽子とドングリ!」

A児「先生、枝豆みたいな葉っぱ!」

Y児「ワー蜘蛛の巣がある!」一歩下がって廻り道をする。

N児「ヒョウ柄みたいな葉っぱ!」と、ドングリを拾いながら教師に手渡す。

I児は、3つに分かれた枯れ枝を2本頭に飾り、「真っ赤なお鼻のトナカイさんはー♪」と嬉しそうに歌う。

S児「先生海がきれいやーキラキラして、きれい!」

T児「大きい、小さい、デブッチョ」呟きながら拾っている。

・島の神様を祭っている神社に気付き、「1年生になるお願いする。」とお参りする。

・帰る途中、出会った人に「今日は!」挨拶や言葉交わしながら園へ戻る。袋の中はドングリなどがいっぱいになっている。

<教師の援助・考察>

【教師の援助や環境構成】

20m位の小山に松ぼっくりやドングリの木が密集している。大小のドングリ、小枝、松ぼっくりなどがたくさん落ちている。島の中央には神社がある。秋の自然に触れ、たくさんの気付きをしてほしいと願う。

【考察】

・子供達はドングリを拾いながら、目に止まった木の葉や枯れ枝、どんぐりや松ぼっくりの形や色、大小などの特徴からイメージを広げ、類似点に気付いたり、家族を連想したりなどしたことを、言葉や体、歌で表現を楽しんでいる。

◇自然の中では、幼児のもつ潜在的な可能性が活性化され探究心や好奇心が、より働くようになっているのではないかと…⑦

・「ドングリ拾い」の行き帰りに、地域の神社に立ち寄り神様をお願いしたり、地域の人との挨拶や、簡単な会話をしたりする体験を重ねている。

◇地域の自然や人々との関わる体験を通して、地域の様子が分かっけいき、地域に親しみを増し社会とのつながりを意識していくのではないかと…⑤



「10の姿」とのつながり

(5)「社会生活との関わり」

(7)「自然との関わり・生命尊重」

(幼児の実態)

虫取り探検で捕まえた虫を飼育しながら、虫の死に直面した。子供たちは、餌が足りないことに気付いたり、図鑑で調べお家をきれいにしようと洗ったり、餌を増やしたりなど試行錯誤しながら、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な生き物への接し方を考え大切にすることを大切にする気持ちをもって関わるようになってきている。

<子どもの姿>



(幼児の言動や姿)

S児「先生また1匹死んでいる！」
 教師「本当だね。」
 子供達「なんで？」
 Y児「ご飯も、お水もあるよ」
 教師「何でだろうー。先生にもわかんない。」
 H児「お部屋がきたなかったのかな？」
 教師「そうかも、汚れているね。」
 Y児「じゃあきれいにしよう。虫かごを洗おう。」
 と、友達と洗いに行く。
 虫かごがきれいになる。
 H児「寒くなったからかな？お布団みたいな探そう」と、枯れ葉を探してきて入れる。
 H児「見て見て、バッタが皮脱いでる。」
 教師「どのバッタが脱いだの？」
 M児「ツチイナゴ」と、指さして言う。
 教師「えー！小さいバッタがこんなに大きくなったの？」
 子供達「不思議ー！！」と、声を揃えて言う。

<教師の援助・考察>

【教師の援助や環境構成】

クラスみんなで大切に飼っていたはずのバッタが突然死んでしまい、戸惑っている子供たち。どうして死んでしまったのか……。思い思いの気持ちを教師や友だちに伝えながら、解決方法を探っていく様子に教師も共感していくようにする。

【考察】

- ・子供の気付きに教師が共感しながら、生き物の死に向き合いながら、その原因を考えている。また、解決するための方法も考え合い、生き物の命を大切にしようとしている。
- ・注意して見ていると、脱皮していることに気づき、伝え合っている。
- ◇自分達が捕まえた昆虫に心動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な生き物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを大切にする気持ちを持って関わるようになっていくのではないかと。…⑦
- ・大切な生き物の死に、どうしたら死なないのかを友達と一緒に考え、考えたことをやってみている。
- ◇友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、やりとげようとしているのではないかと。…③



「10の姿」とのつながり

- (3)「協同性」
- (7)「自然との関わり・生命尊重」

本報告書は、文部科学省の「幼児期の教育内容等深化・充実調査研究」の委託費による委託業務として、大分県が実施した平成29年度幼児期の教育内容等深化・充実調査研究の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文部科学省の承認手続きが必要です。

大分県教育庁義務教育課

〒870-8503 大分市府内町3丁目10番1号

電話 097-506-5533

平成30年3月